

2022 年度

学生実態調査アンケート 報告書



自分が変わる、未来を変える。

まえがき

学生実態調査アンケートの実施および本報告書の作成にあたって

2020年度の大学認証評価における実地審査で、学生実態調査が行われていないため学生の意見・要望をくみ上げる仕組みが十分でない旨の指摘を受けた。また、本学の教育に関する内部質保証のPDCAサイクルを効果的に機能させるためには、教学マネジメントを確立する必要がある。現在、学習成果（正課・学業成績）の点検・評価は実施しているが、学生生活・課外活動等を含めた学修成果を評価するための情報が不足していると思われる。

こうした背景を受け、2022年度から新たに『学生実態調査』を実施することにより、学生の意見・要望をくみ上げる仕組みを構築することとした。質問項目には、大学認証評価（第3期の基準 2.学生）の留意点として記されている項目を把握できる設問を含めるとともに、他大学との比較のために、日本私立大学連盟の「学生生活実態調査」の設問も参考にした。また、高い回答率を得るため、対面の環境でWeb入力させる方法で、かつ15分程度で回答できる内容とした。無記名での回答とし、実施時期は対象者ごとに以下のように実施した。

○1～3年生：次年度前期の履修ガイダンスにおいて、対面で行われる事務系ガイダンスの中で実施した（2023年3月22日、23日、24日）。回答者数は3年生（20生+過年度）598名、2年生（21生）が554名、1年生（22生）が719名であった。

○4年生：2023年1月23日（月）～2月20日（月）までの回答期間において、卒業研究発表会などの機会を活用し、各学科・専攻で適切な機会に実施していただいた。各研究室単位での実施でも可とした。4年生に関しても、未回答者に対しては締切日（2月末日）までに必ず回答するように事務局（総務室）から大同大学ポータルサイトで呼びかけた。回答者数（19生+過年度）は488名であった。

○2023年度新入生に対して

入学直後に対面で行われる事務系オリエンテーションでWeb入力させる方法で実施した。回答者数は890名であった。

得られた結果について、以下①②③の手順で分析・報告書の作成を行った。

①4つの事務室（学生室、教務室、入試・広報室、キャリア支援室）が大学全体としての分析と改善・向上方策の検討を行う。これまであまり行われてこなかった他大学との比較を行い、本学の教学マネジメントとして知見を得る。

②設問区分「正課教育」（授業に関するもの）に関する回答結果について、教務室および教学マネジメントWGが①の全学的な分析を行ったのち、各学科・専攻単位のグラフ等を作成する。これらのグラフ等について各学科・専攻からの分析を行う。

③事務局主担当の総務室にて、①②を取り纏めた学生実態調査アンケート報告書（案）を作成する。

上記①②③の工程の成果物である報告書（案）について、審議をへて取り纏められたものが本報告書である。

最後に、回答していただいた学生の皆さん、実施および分析にご協力をいただいた先生方、関係事務部署職員の方々に厚く御礼申し上げます

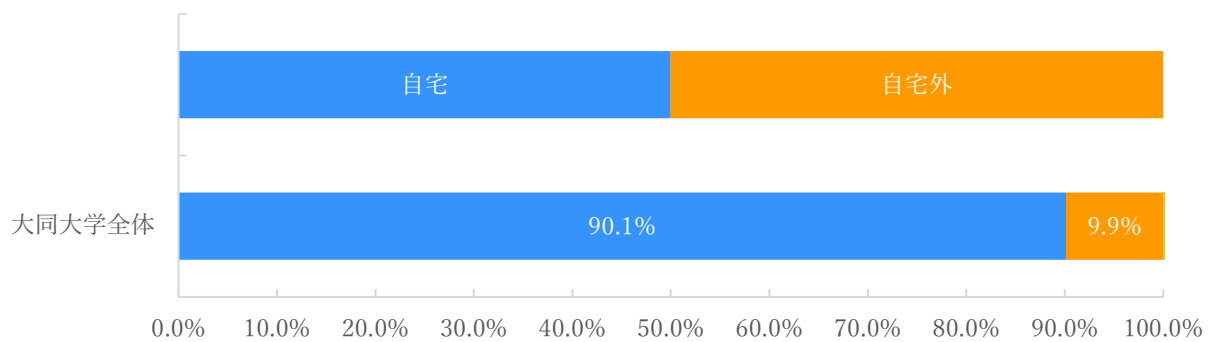
2023年12月

大学評価委員会 委員長
棚橋秀行

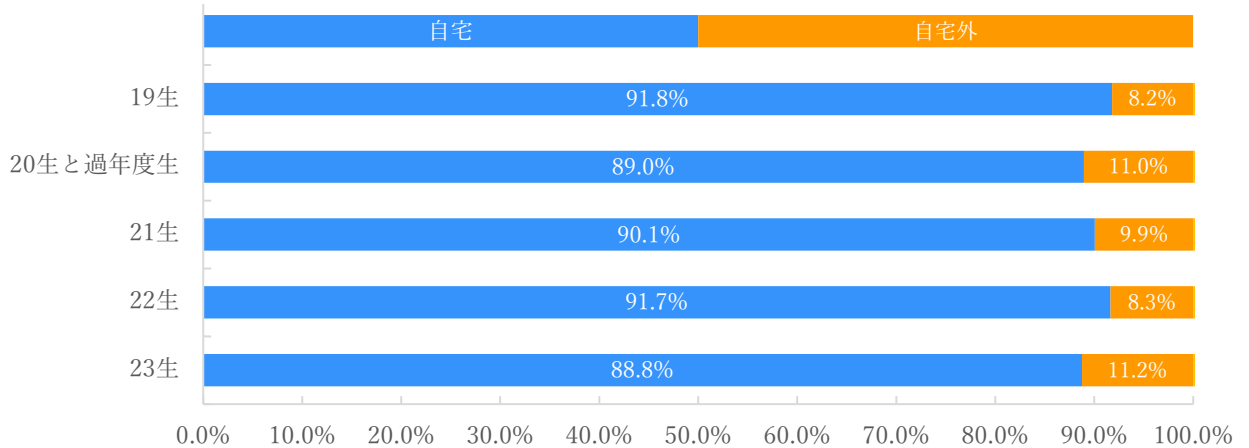
回答属性

所属学科 2023年4月現在	(上段：回答人数 下段：対象人数)					総計
	19生 卒業生	20生(含む過年度生) 新4年生	21生 新3年生	22生 新2年生	23生 新入学生	
機械工学科	56 (124)	76 (103)	85 (129)	128 (169)	118 (125)	463 (650)
機械システム工学科	86 (105)	81 (100)	67 (110)	108 (137)	120 (123)	462 (575)
電気電子工学科	67 (97)	64 (87)	41 (81)	62 (105)	101 (103)	335 (473)
建築学科 建築専攻 及び インテリアデザイン専攻	50 (108)	79 (129)	71 (128)	84 (125)	134 (135)	418 (625)
建築学科 土木・環境専攻	68 (79)	48 (57)	49 (55)	53 (65)	61 (62)	279 (318)
建築学科 かおりデザイン専攻	27 (28)	21 (22)	18 (25)	17 (26)	23 (26)	106 (127)
情報システム学科	80 (118)	94 (108)	75 (116)	110 (147)	143 (147)	502 (636)
情報デザイン学科	28 (144)	93 (114)	102 (121)	97 (123)	119 (127)	439 (629)
総合情報学科	26 (76)	42 (74)	46 (70)	60 (78)	71 (74)	245 (372)
総計	488 (879)	598 (794)	554 (835)	719 (975)	890 (922)	3249 (4405)

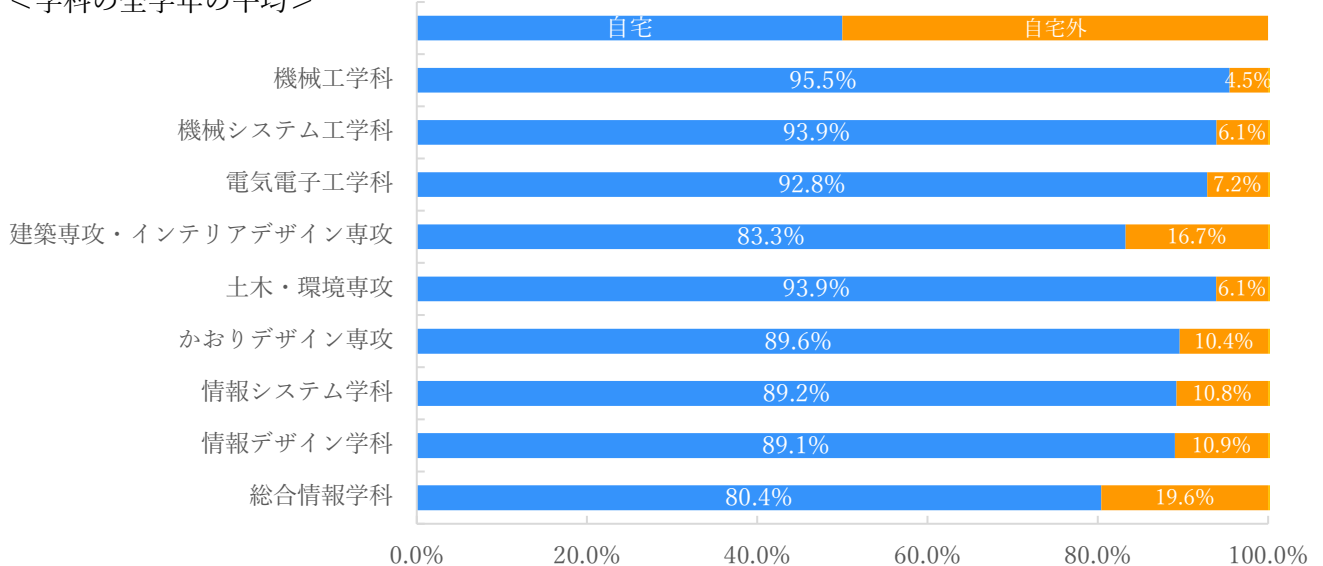
区分	19生	過年度,20生,21生,22生	23生	あなたの現在の住まいはどちらですか。
設問No.	1	1	1	



<本学の各学年の平均>



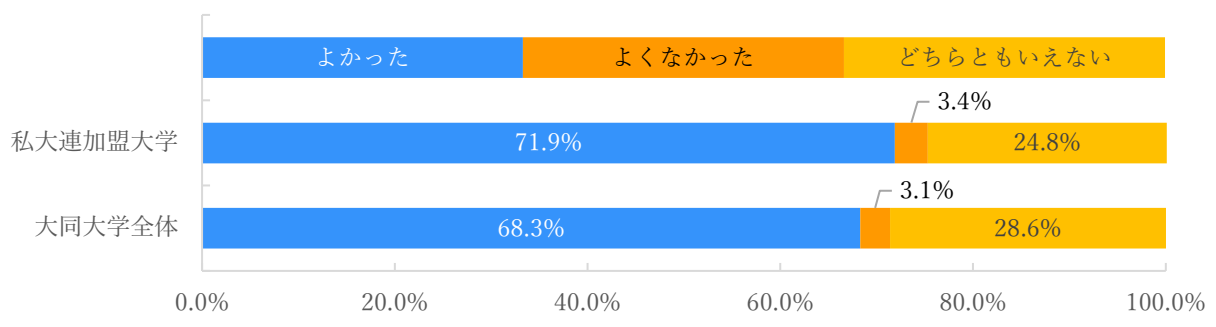
<学科の全学年の平均>



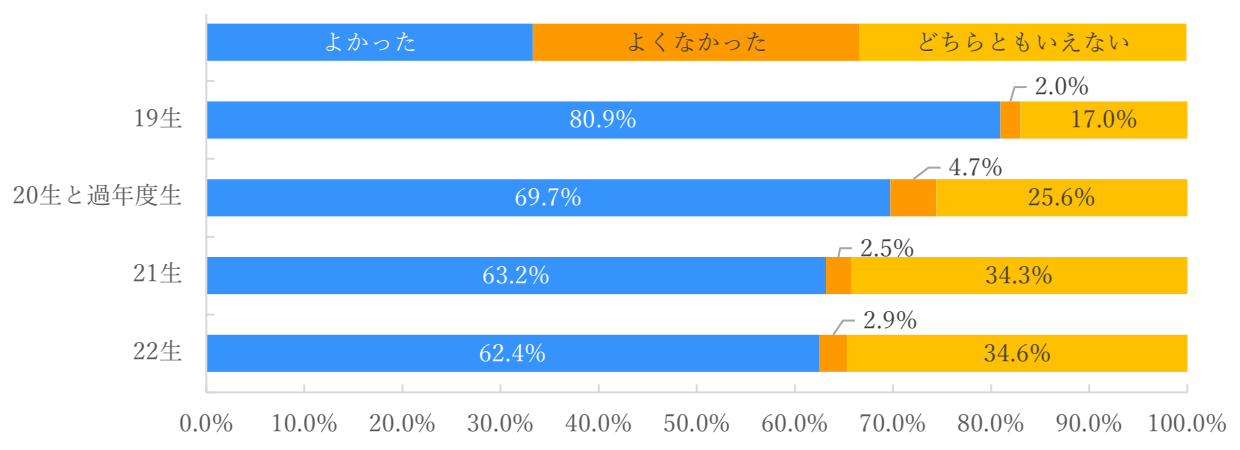
「自宅」が圧倒的多数

本学学生の住まいは、全学年において「自宅」と回答した割合が 90%前後となっており、圧倒的多数を占める結果となった。

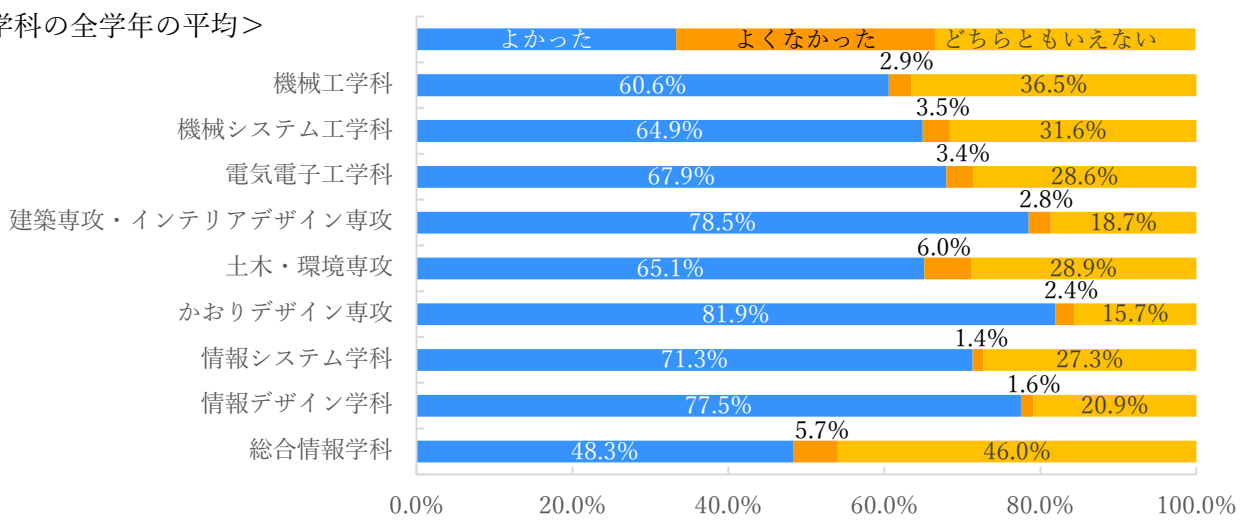
区分	19生	過年度,20生,21生,22生	23生	所属する学科・専攻に入学してよかったと思いますか。
設問No.	3	4	—	



<本学の各学年の平均>



<学科の全学年の平均>

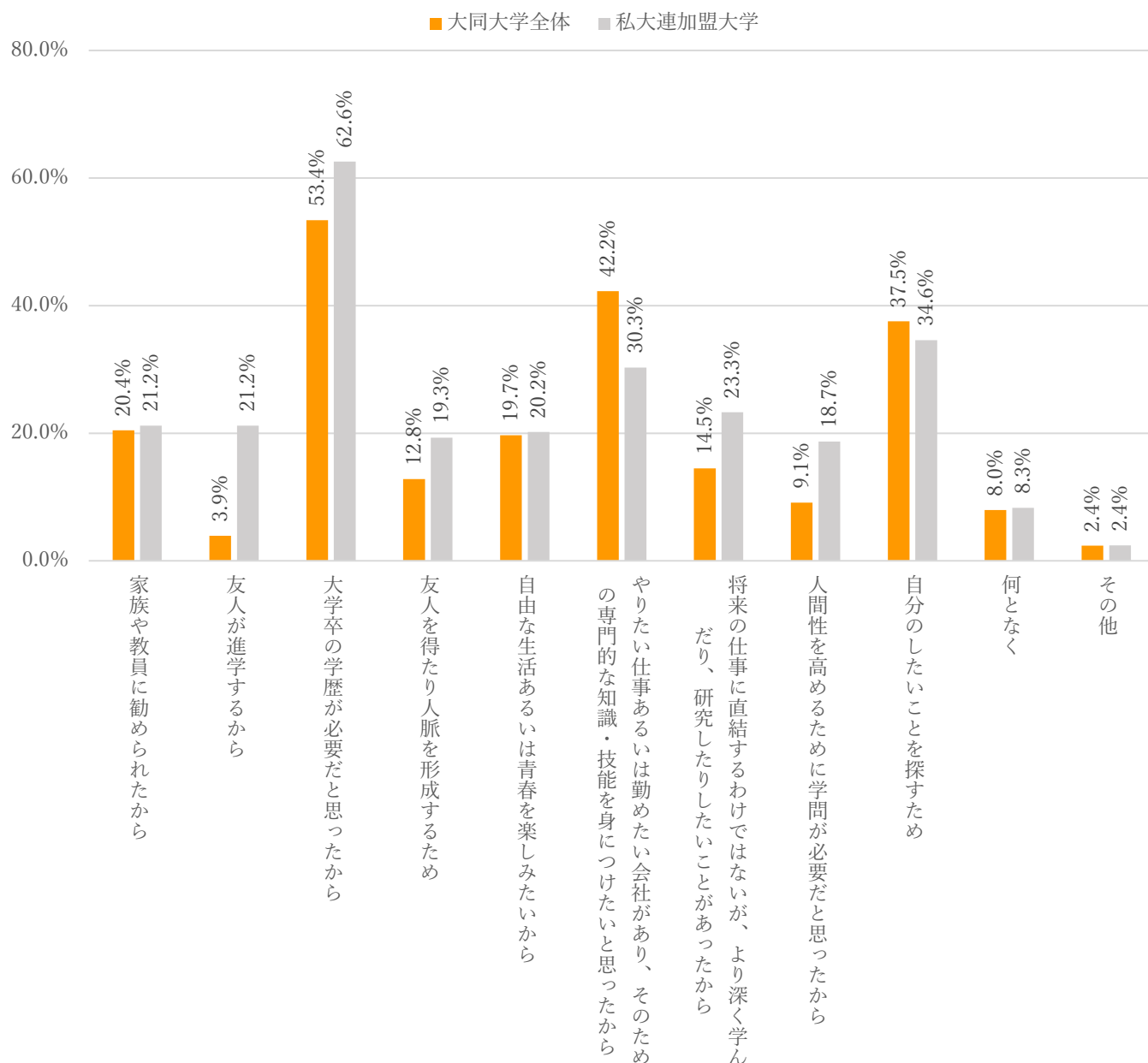


卒業時の満足度が非常に高い

所属する学部・学科への満足度について調査した本項目で、「よかった」と回答した本学学生の割合は、19生以上(卒業時)が80.9%、20生及び過年度生(3年次末)が69.7%、21生(2年次末)が63.2%、22生(1年次末)が62.4%という結果となった。

上位年次生の方が「よかった」と回答した学生の割合が高くなっており、上位年次になるほど、充実した大学生生活を過ごしているといえるだろう。

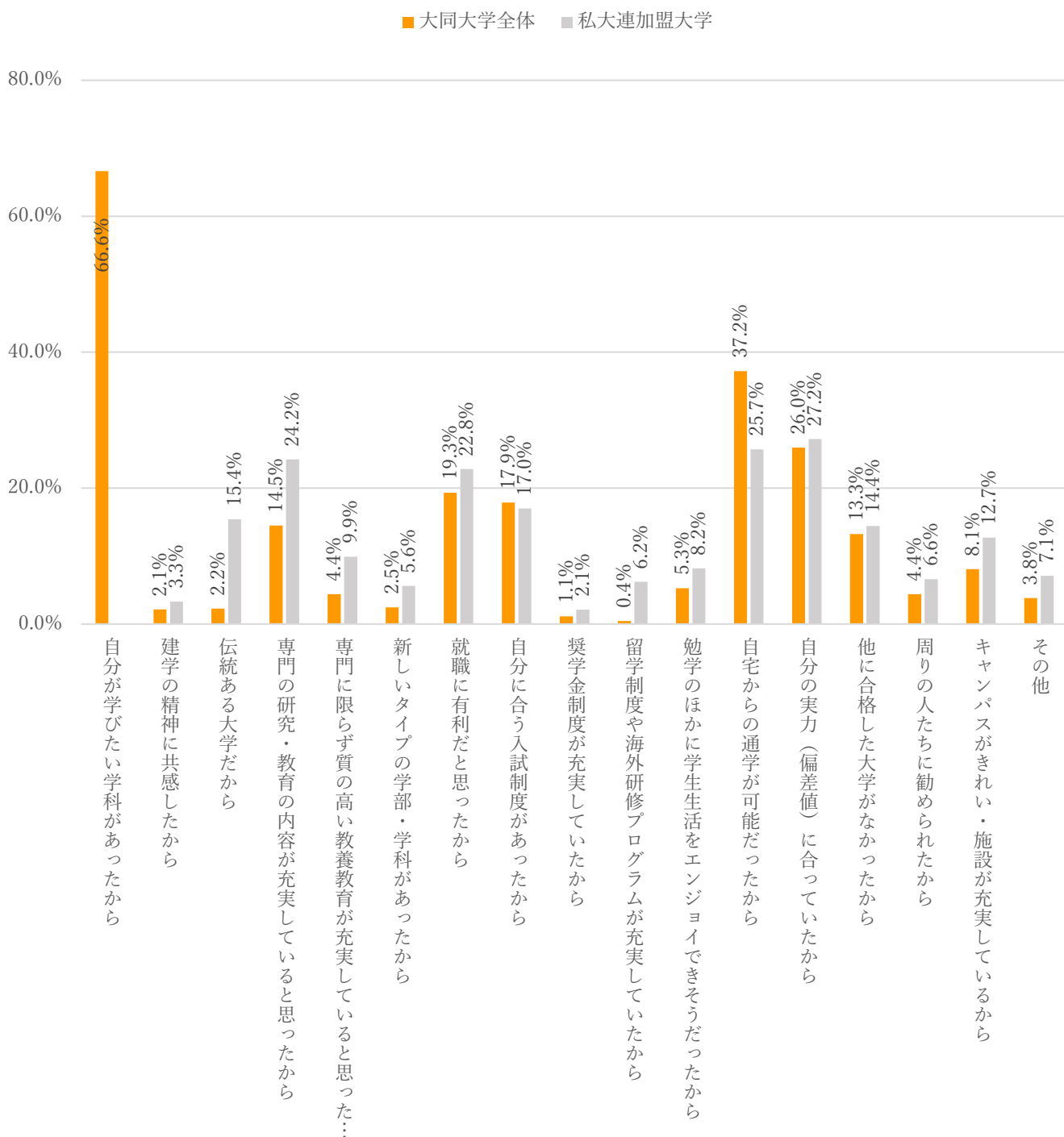
区分	19生	過年度,20生,21生,22生	23生	大学進学目的は何ですか。
設問No.	—	—	3	



「大学卒の学歴が必要だと思ったから」が1位

大学進学目的については、新入生全体では、「大学卒の学歴が必要だと思ったから」が 53.4%で最も高く、次いで「やりたい仕事あるいは勤めたい会社があり、そのための専門的な知識・技能を身につけたいと思ったから」が 42.2%、「自分のしたいことを探すため」が 37.5%であった。全国平均と比較すると「大学卒の学歴が必要だと思ったから」は 9.2%低く、「やりたい仕事あるいは勤めたい会社があり、そのための専門的な知識・技能を身につけたいと思ったから」は 11.9%高いことから、明確な目的のもと本学へ進学する学生が多いことが伺える。

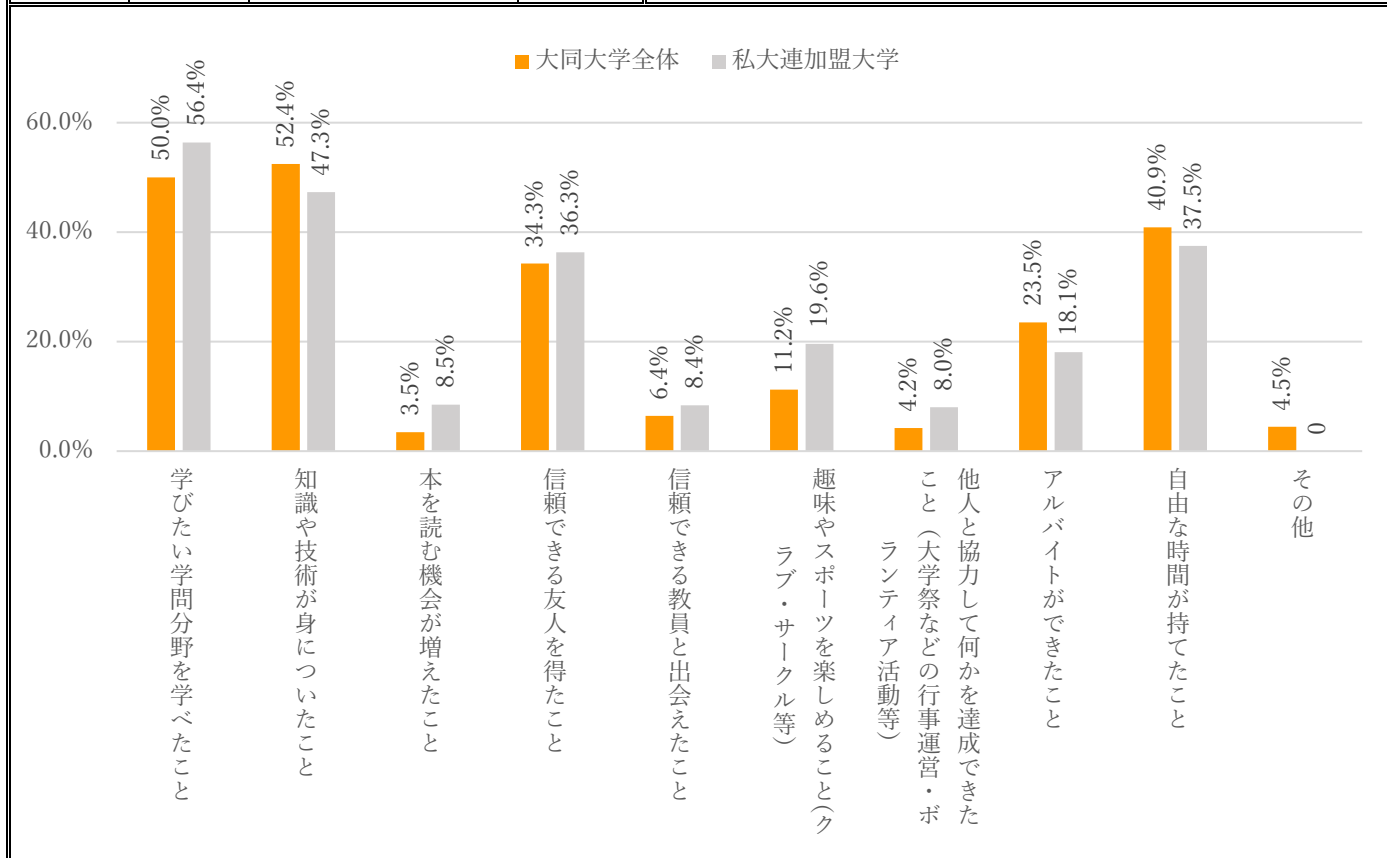
区分	19生	過年度,20生,21生,22生	23生	大同大学を選択した理由は何ですか。
設問No.	—	—	4	



「学びたい学科」と「通学が可能」が高い

大同大学を選択した理由については、新入生全体では、「自分が学びたい学科があったから」が 66.6%で最も高く、次いで「自宅からの通学が可能だったから」が 37.2%、「自分の実力(偏差値)に合っていたから」が 26.0%であった。全国平均と比較すると「自宅からの通学が可能だったから」は 11.5%高く、「自分の実力(偏差値)に合っていたから」は 1.2%低い。本学の学びとアクセスの良さに魅力を感じているようだ。一方で「就職に有利だと思ったから」は全国平均と比較して 3.5%低く、就職の魅力が浸透していない結果となった。

区分	19生	過年度,20生,21生,22生	23生	大学に入ってよかったと思うのは、どういう点ですか。
設問No.	4	5	—	

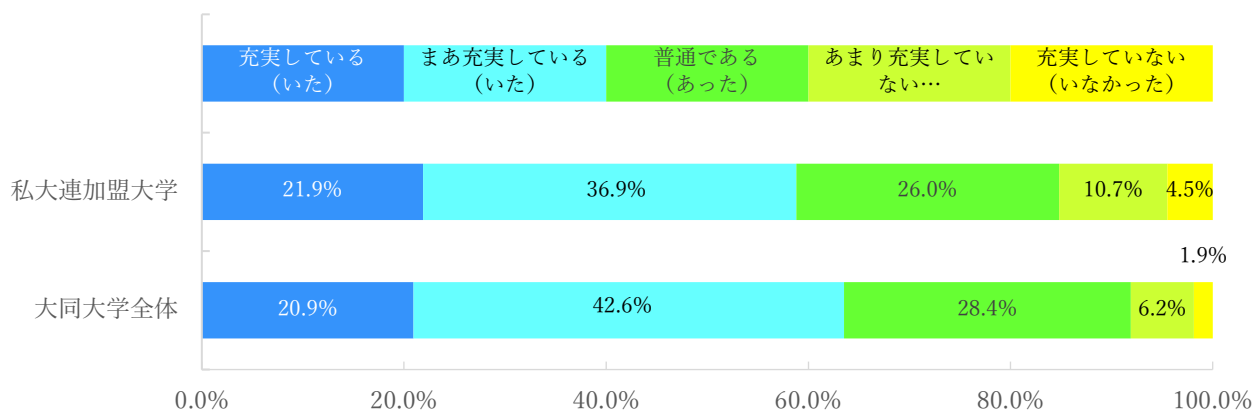


「知識や技術が身についたこと」「学びたい学問分野を学べたこと」に高い満足度

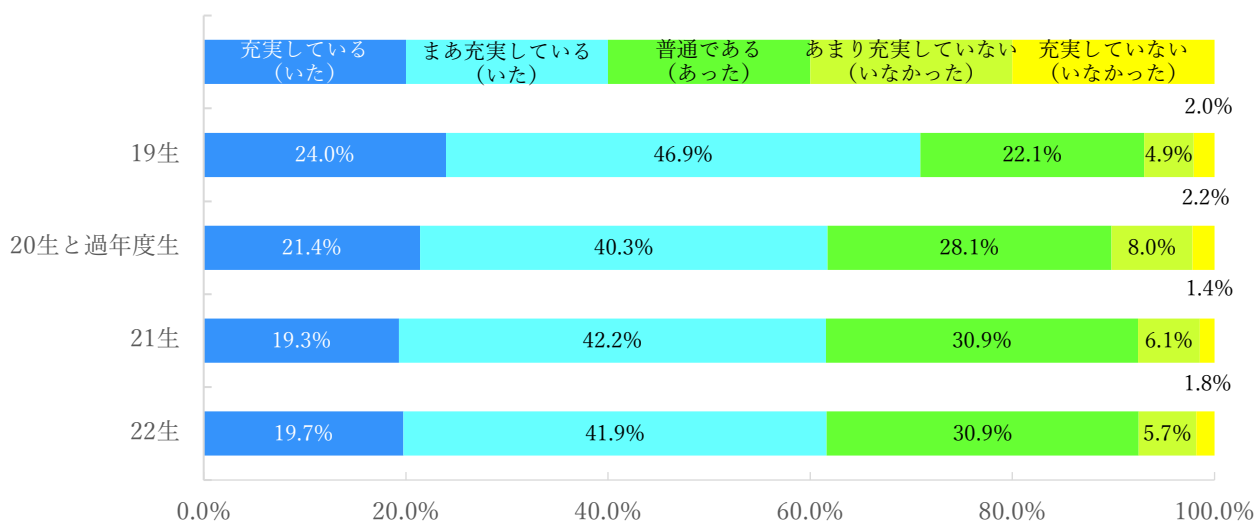
学生が本学に入学してよかったと思っている点は、全学年において「知識や技術が身についたこと」「学びたい学問分野を学べたこと」が高い結果となった。

また、「アルバイトができたこと」は全学年において全国平均よりも高い結果となった。

区分	19生	過年度,20生,21生,22生	23生	あなたの学生生活は充実していましたか。
設問No.	5	6	—	



<本学の各学年の平均>

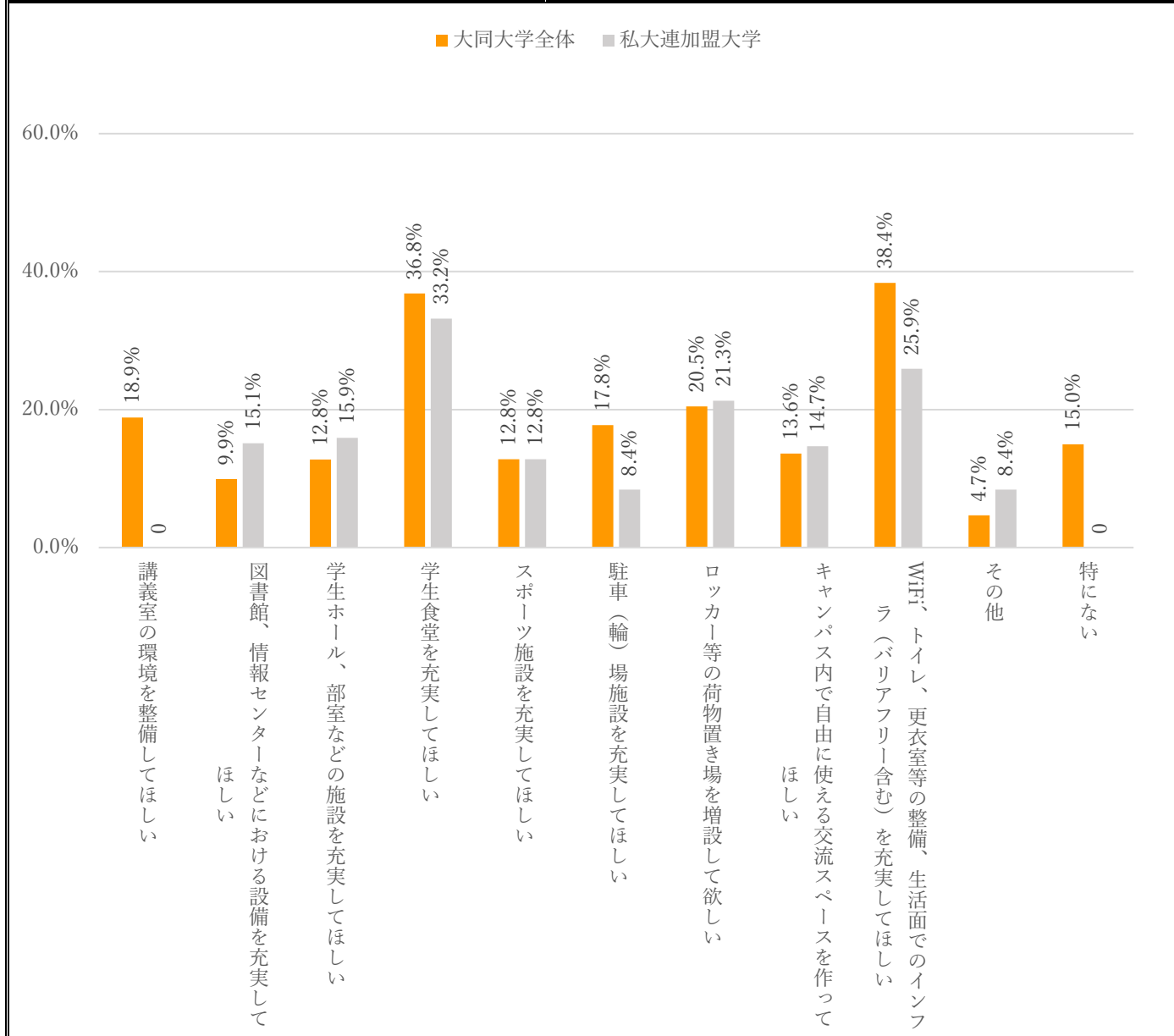


卒業時の充実度が高い

学生生活の充実度について、「充実している」「まあ充実している」を合計した「充実群」で見ると本学は、19 生以上(卒業時)が 70.9%、20 生及び過年度生(3 年次末)が 61.7%、21 生(2 年次末)が 61.5%、22 生(1 年次末)が 61.6% という結果となった。

なお、全国平均の「充実群」の回答は 61.6%であり、本学学生の卒業時は、全国平均より 9.4 ポイント高い結果となった。

区分	19生	過年度,20生,21生,22生	23生	大学の施設に対する要望にはどのようなものがありますか。
設問No.	6	7	—	

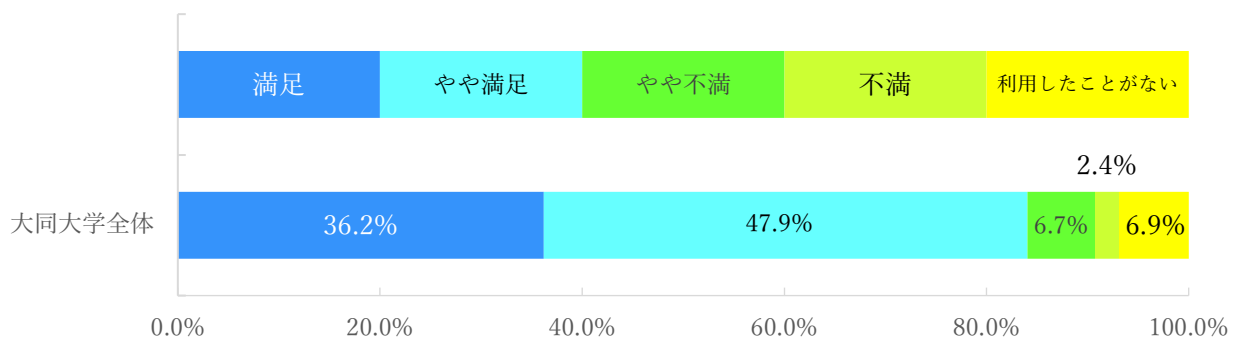


「Wi-Fi、トイレ、更衣室等の整備、生活面でのインフラを充実してほしい」「学生食堂を充実してほしい」への要望が高い

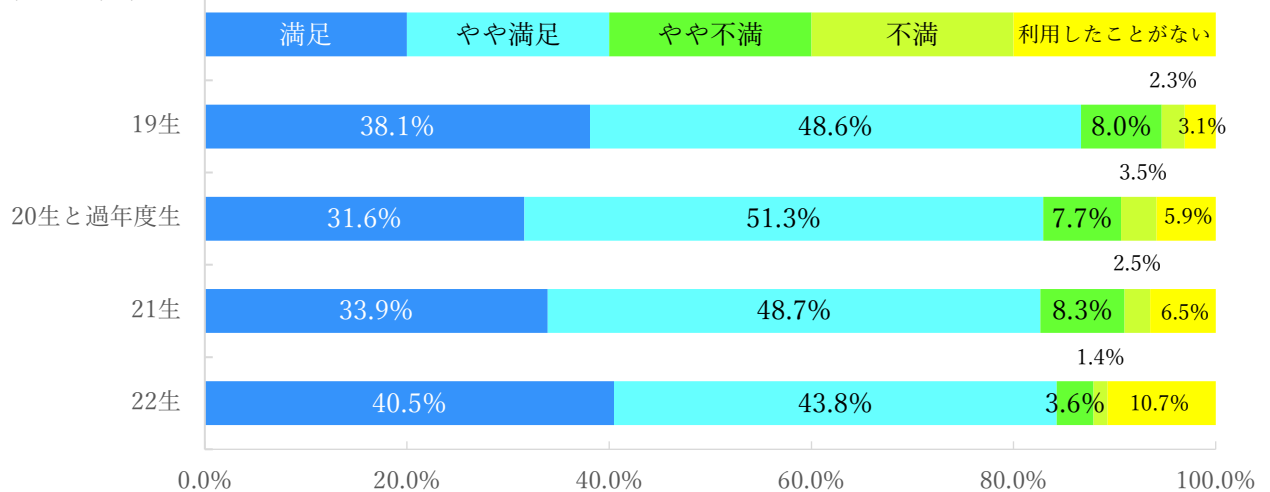
大学の施設に対する要望は「Wi-Fi、トイレ、更衣室等の整備、生活面でのインフラを充実してほしい」「学生食堂を充実してほしい」が上位2項目となっている。

なお、全国平均の結果を見ても、同様の要望が上位となっている。

区分	19生	過年度,20生,21生,22生	23生	職員の窓口対応(学生室・教務室・キャリア支援室など)について満足していますか。
設問No.	7	8	—	



<本学の各学年の平均>



満足度が8割を超える

職員の窓口対応の満足度について、「満足」「やや満足」を合計した「満足群」で見ると、19生以上(卒業時)が86.7%、20生及び過年度生(3年次末)が82.9%、21生(2年次末)が82.6%、22生(1年次末)が84.3%で、いずれも8割を超える結果となった。【学生室】

コロナ禍の学生が満足する窓口対応を考える必要

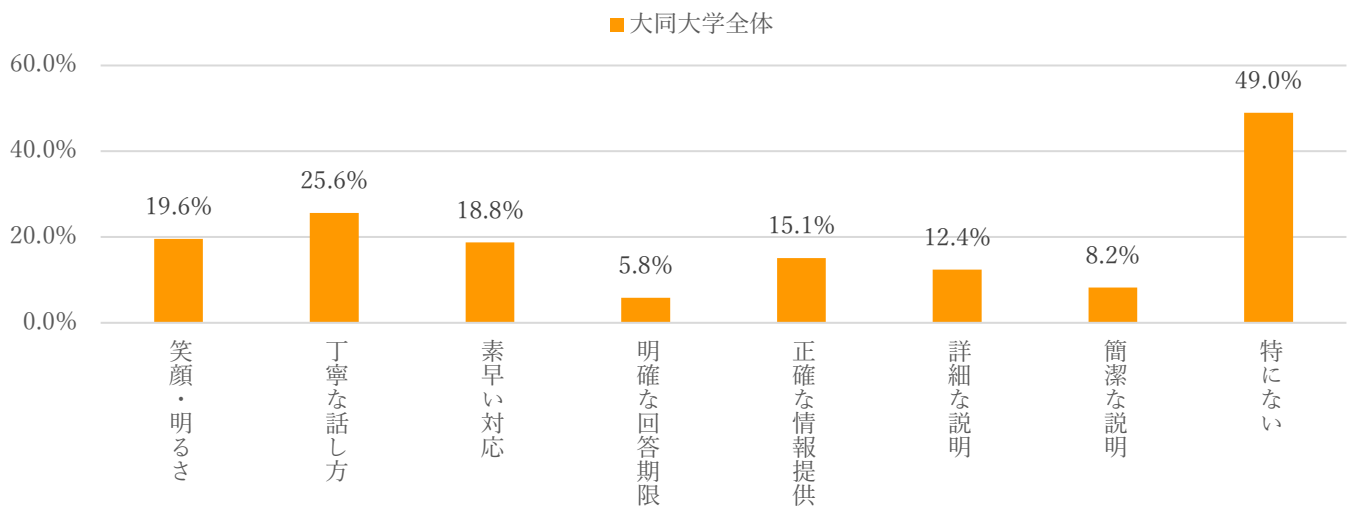
窓口対応の満足度については、20生の「不満」、21生に「やや不満」「不満」の割合が高い。コロナ禍に入学した学生でオンラインでの対応が主であり窓口での直接対応が多くないと思われるが、このような結果になっていることには、改善を考える必要があると感じる。【キャリア支援室】

学生からの満足は得られている

1年次では全体で85%の学生が満足回答し、まだ利用したことがないが10%を占めている。2年次でも全体で80%を超える満足状況ではあるが、不満が10%になり増加している。3年次以上の内容は2年次とほぼ同様である。卒業予定者(4年次)は、全体で85%以上の満足となっており、4年間を通して、大半の学生の満足を得られた結果となっている。

窓口全体の結果のため、教務室だけで判断はできないが、本学の窓口対応としての問題は特にないのではと思われる。今後も引き続き次の設問「窓口対応の課題」を踏まえ、改善意識をもって学生対応していく必要がある。【教務室】

区分	19生	過年度,20生,21生,22生	23生	職員の窓口対応(学生室・教務室・キャリア支援室など)について、改善してほしい点を選択してください。
設問No.	8	9	—	



「丁寧な話し方」への改善要望が高い

職員の窓口対応についての改善要望は「特にない」の次に「丁寧な話し方」が上位となった。

なお、全国平均の結果を見ても、同様の要望が上位となっている。【学生室】

改善点「正確な情報提供」に対する精査が必要

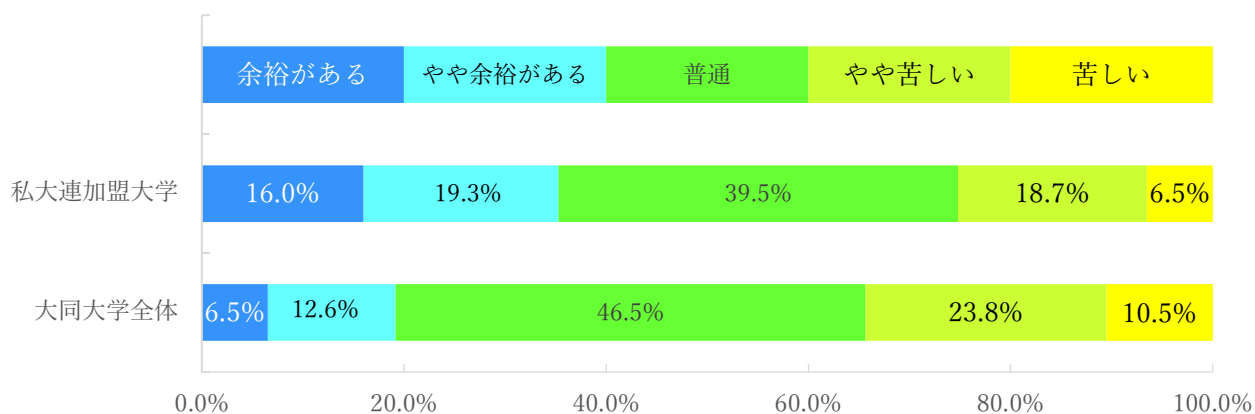
学年・学科・専攻ごとに、多少の差はあるが、いずれも「丁寧な話し方」を改善してほしいとの要望が強かった。より丁寧な対応が求められる。それ以上に検証、対応をすべきと思われる点は、「正確な情報提供」をしてほしいとのことである。これ以外の項目に関しては、主観が関係することから個人差が生じるが、「情報」は個人差が生じると思われないため、重点的に対応する必要があると思われる。【キャリア支援室】

より「伝える」「伝わる」を意識した窓口対応を

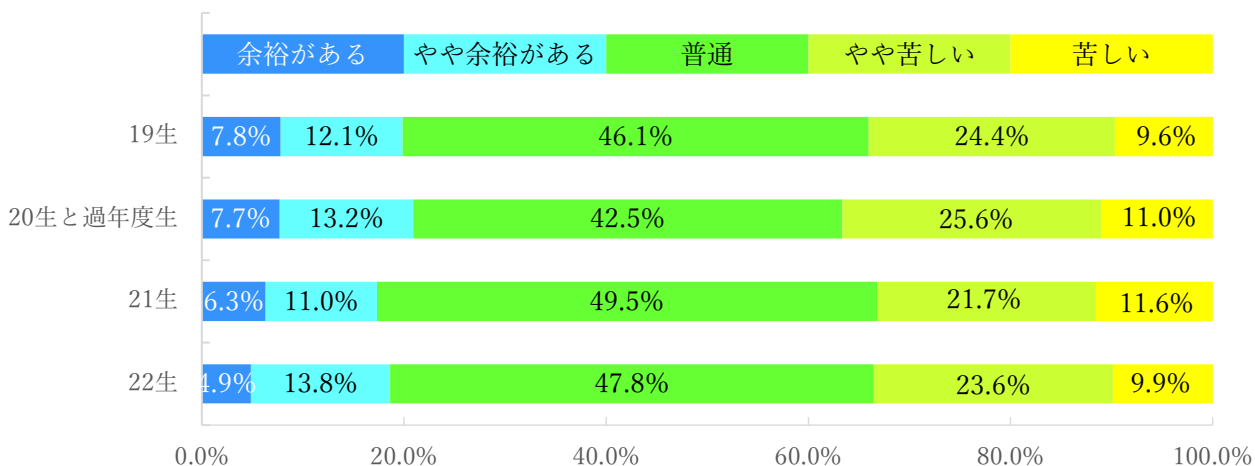
全学年を通して、「笑顔・明るさ」「丁寧な話し方」「素早い対応」の3点が求められている。どの内容も窓口業務に必須事項のため、教務室として再度、心がける予定である。ただ改善にたいしても「特にない」が50%近くを占めており、本学の窓口としては無難に運営できていると思われる。

また、大学から提供される「情報」や「説明」も次いで求められている。ガイダンスの方法や手引きの見直しなど、より「伝える」「伝わる」ことを意識して、取り組む必要があると思われる。【教務室】

区分	19生	過年度,20生,21生,22生	23生	あなたは自分の経済状況についてどのように感じていますか。
設問No.	9	10	—	



<本学の各学年の平均>

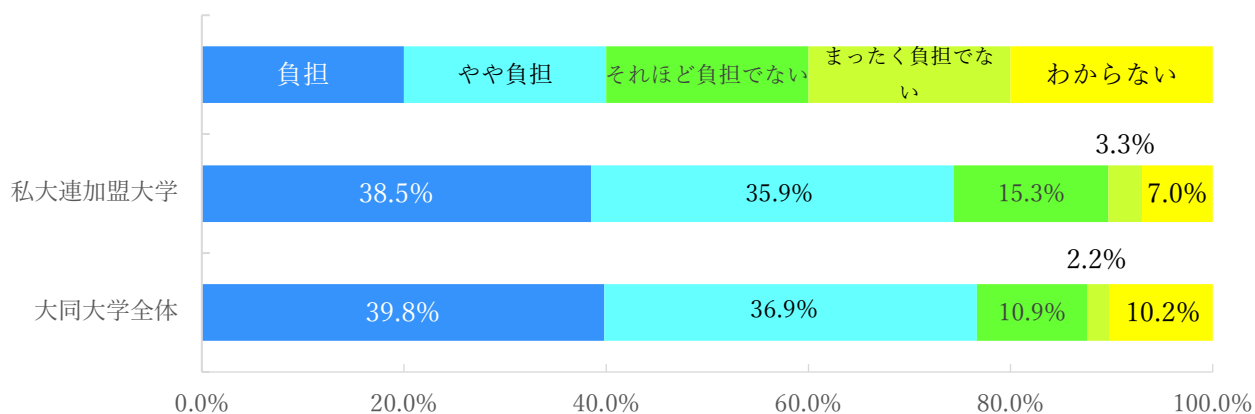


経済状況が「やや苦しい」「苦しい」と回答した学生が全国平均より高い

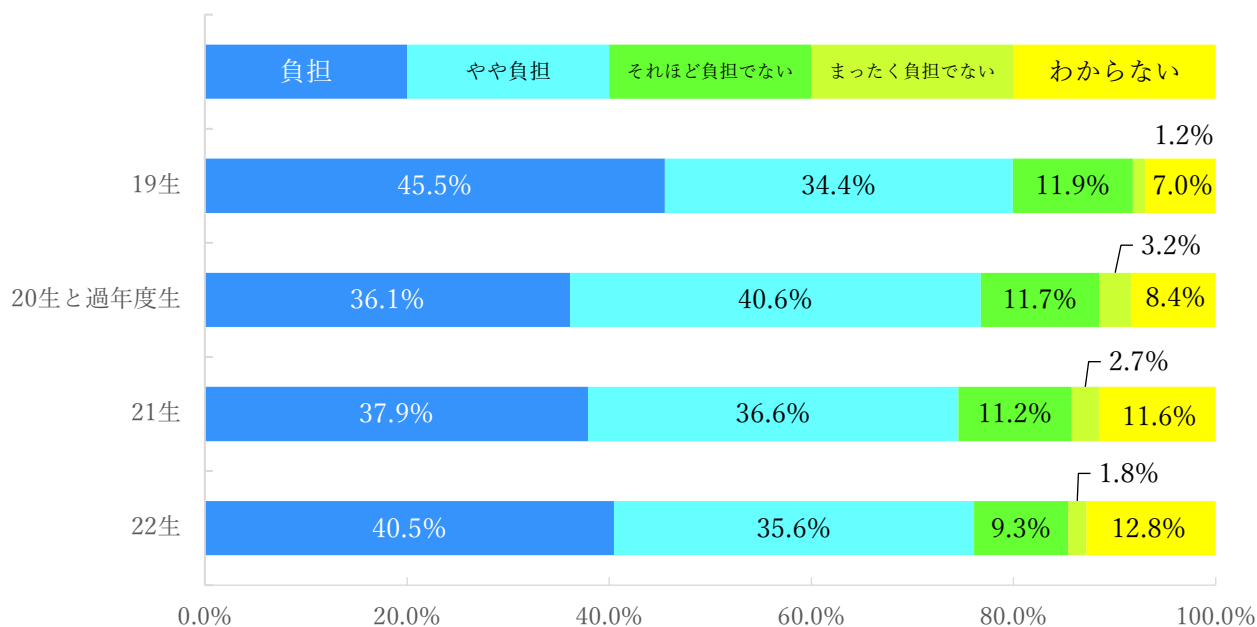
本学では、「余裕がある」「やや余裕がある」と回答した合計で見ると、19生以上(卒業時)が19.9%、20生及び過年度生(3年次末)が20.9%、21生(2年次末)が17.3%、22生(1年次末)が18.7%で、全国平均の35.3%と比較するとすべて低い結果となった。

「やや苦しい」「苦しい」と回答した合計で見ると、19生以上(卒業時)が34.0%、20生及び過年度生(3年次末)が36.6%、21生(2年次末)が33.3%、22生(1年次末)が33.5%で、全国平均の25.2%と比較するとすべてが高い結果となっている。

区分	19生	過年度,20生,21生,22生	23生	あなたの家の家計にとって、学費は負担になっていると思いますか。
設問No.	10	11	—	



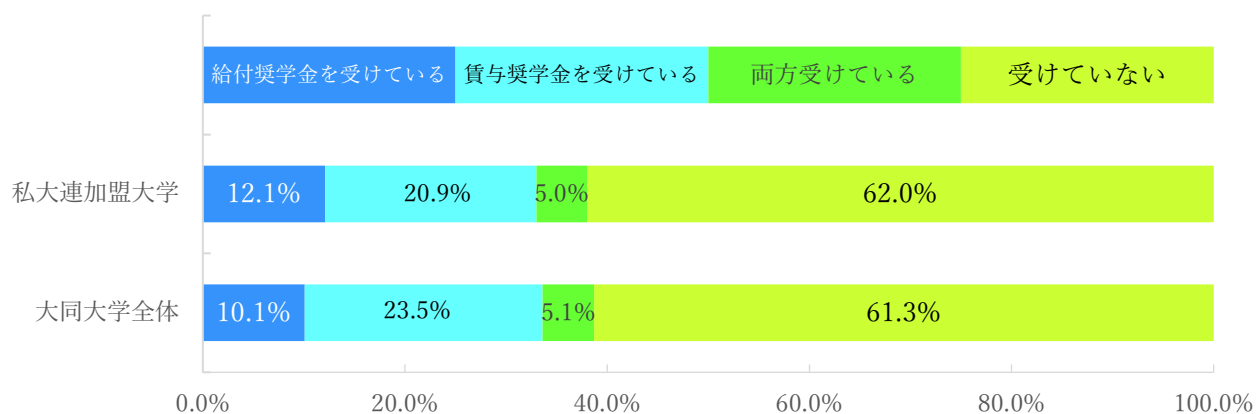
<本学の各学年の平均>



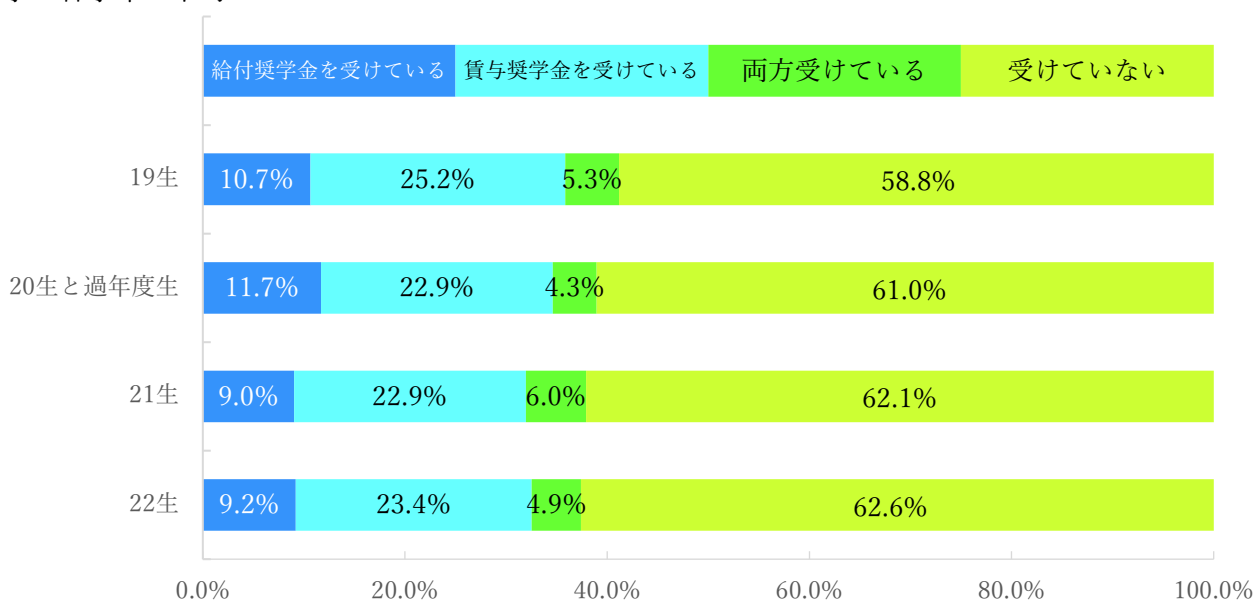
学費が家計の負担になっていると感じる学生が全国平均を上回る

本学では、「負担になっている」「やや負担に」と回答した合計で見ると、19生以上(卒業時)が79.9%、20生及び過年度生(3年次末)が76.7%、21生(2年次末)が74.5%、22生(1年次末)が76.1%で、全国平均の74.4%をすべて上回る結果となった。

区分	19生	過年度,20生,21生,22生	23生	奨学金を受けていますか。
設問No.	11	12	—	



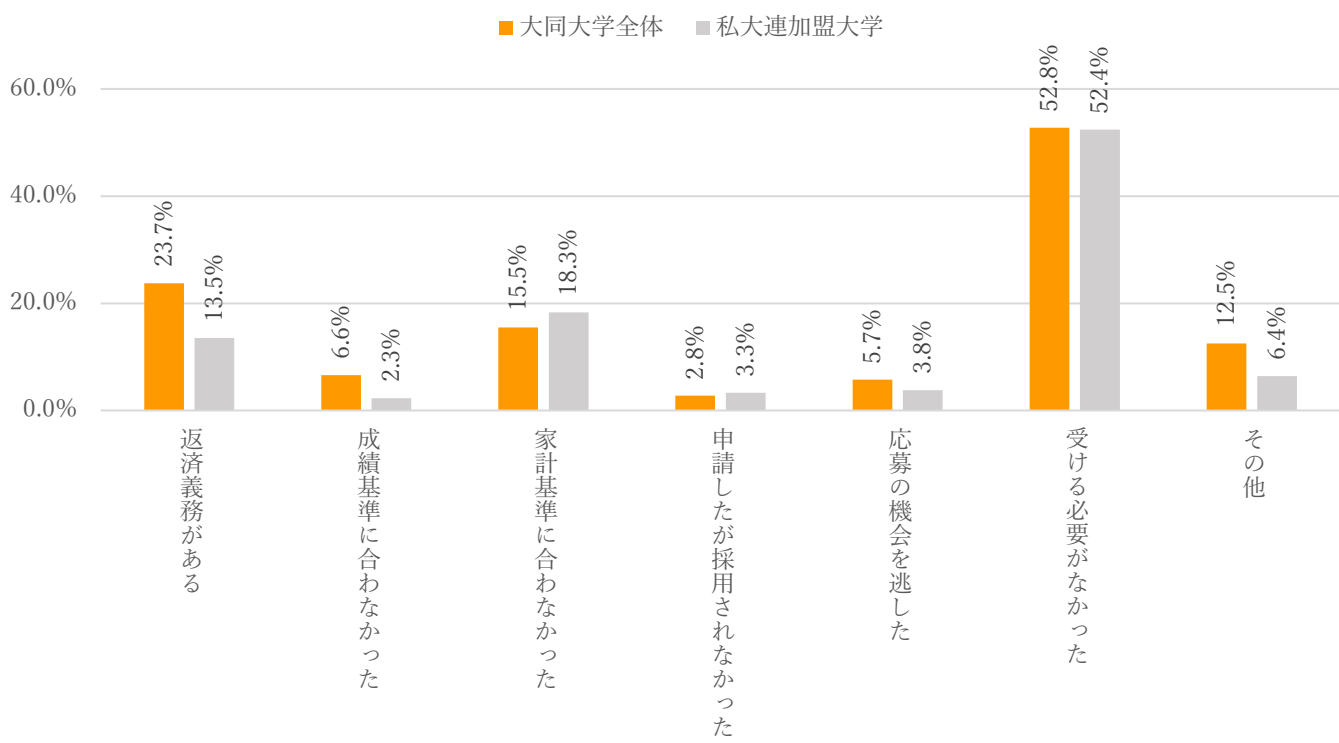
<本学の各学年の平均>



何らかの奨学金を受けている学生は全国平均とほぼ同等

何らかの奨学金を「受けている」と回答した学生の割合は、19生以上(卒業時)が41.2%、20生及び過年度生(3年次末)が38.9%、21生(2年次末)が37.9%、22生(1年次末)が37.5%で、全国平均の38.0%とほぼ同等の結果となっている。

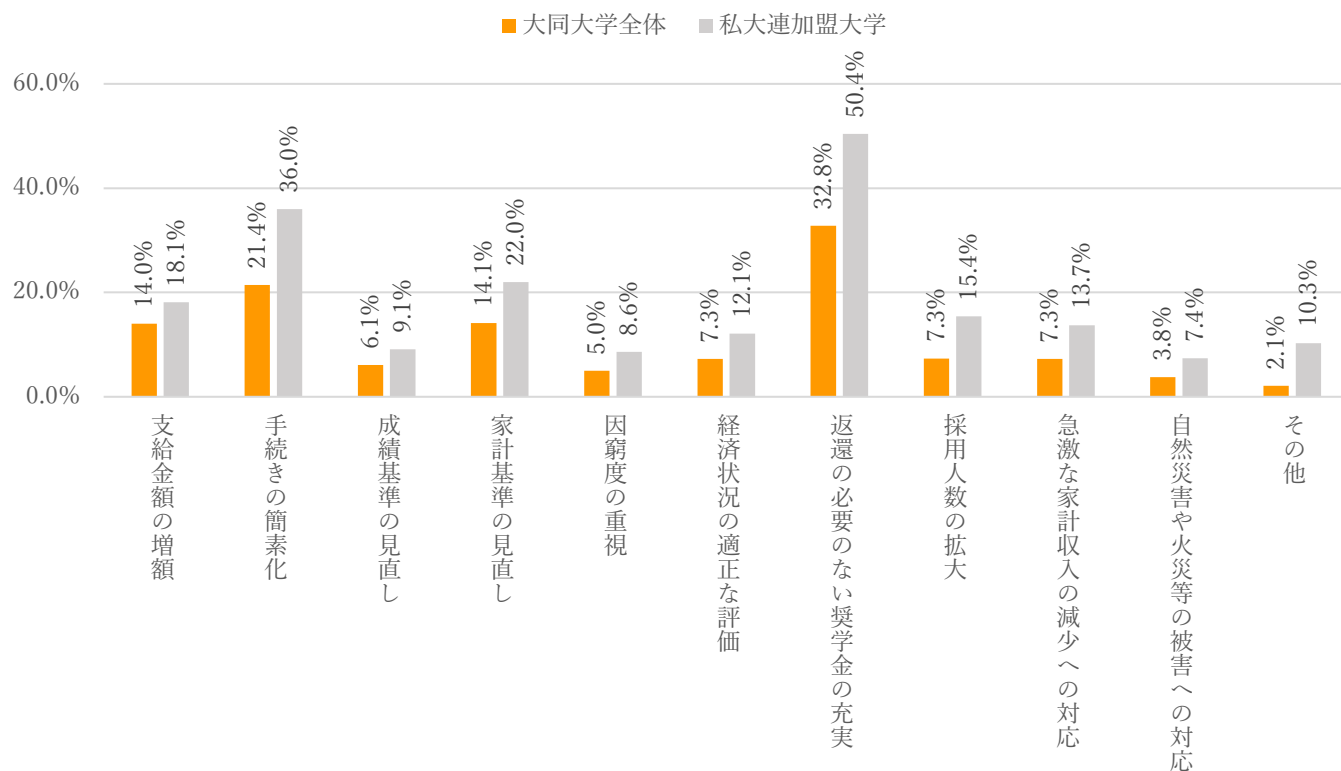
区分	19生	過年度,20生,21生,22生	23生	奨学金を受けていない理由を選んでください。
設問No.	12	13	—	



奨学金を受けていない理由は「返済義務がある」ため

奨学金を「受けていない」と回答した学生のうち、「受ける必要がなかった」と回答した学生の割合が最も高く、次いで「返済義務がある」が高かった。

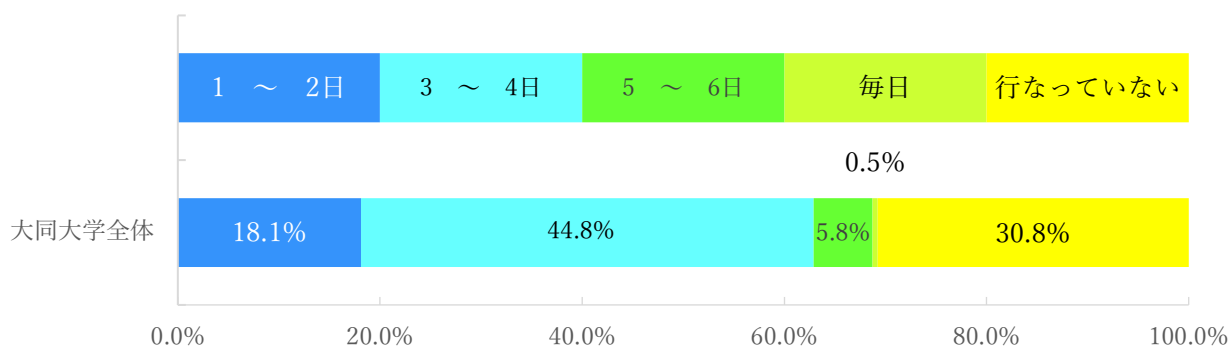
区分	19生	過年度,20生,21生,22生	23生	奨学金制度に希望することは何ですか。
設問No.	13	14	—	



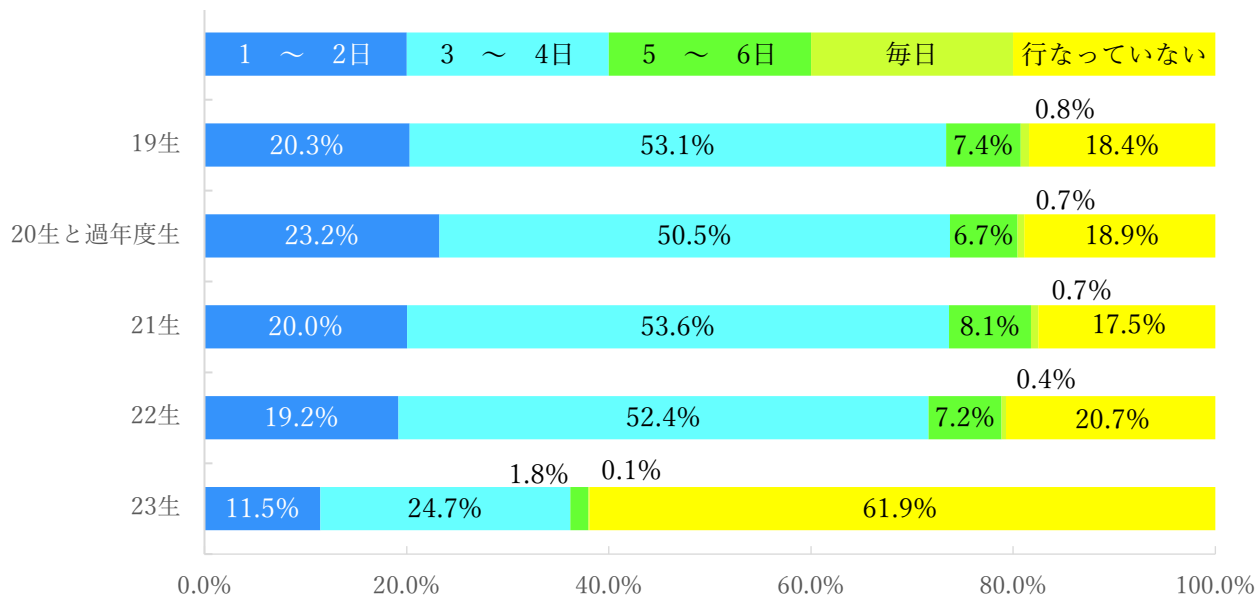
「返還の必要のない奨学金の充実」「手続きの簡素化」を希望度が高い

奨学金制度に希望することとして、「返還の必要のない奨学金の充実」が最も高かった。次いで「手続きの簡素化」となっており、これは全国平均と同じ結果である。

区分	19生	過年度,20生,21生,22生	23生	アルバイトを週にどのくらい行なっていますか。
設問No.	14	15	5	



<本学の各学年の平均>

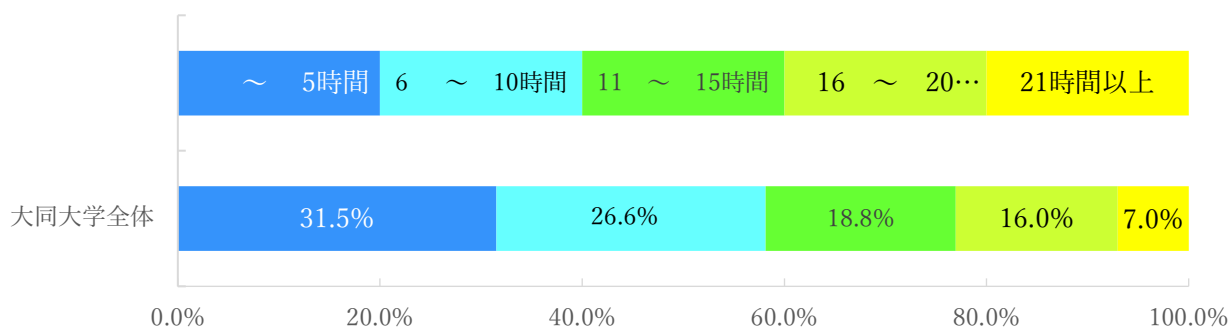


「3～4日」と回答した学生が最も多い

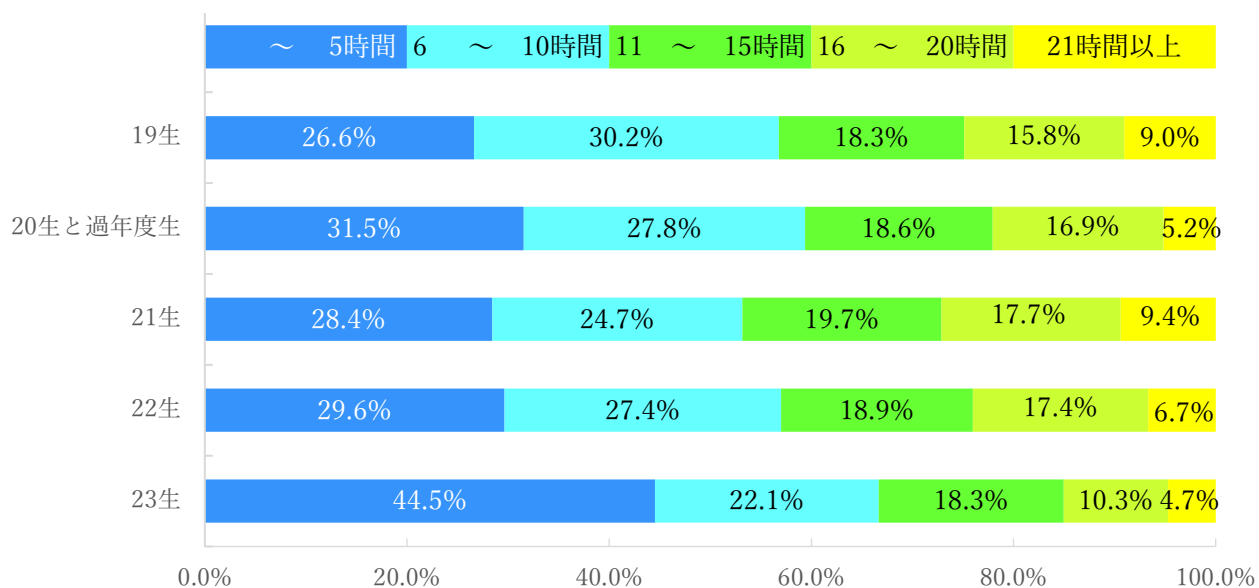
「3～4日」と回答した学生の割合が最も高く、19生以上(卒業時)が53.1%、20生及び過年度生(3年次末)が50.5%、21生(2年次末)が53.6%、22生(1年次末)が52.4%であった。

なお、23生(新入時)は「行っていない」と回答した学生の割合が最も高く、61.9%であった。

区分	19生	過年度,20生,21生,22生	23生	1週間のアルバイト時間を選択してください。
設問No.	15	16	6	



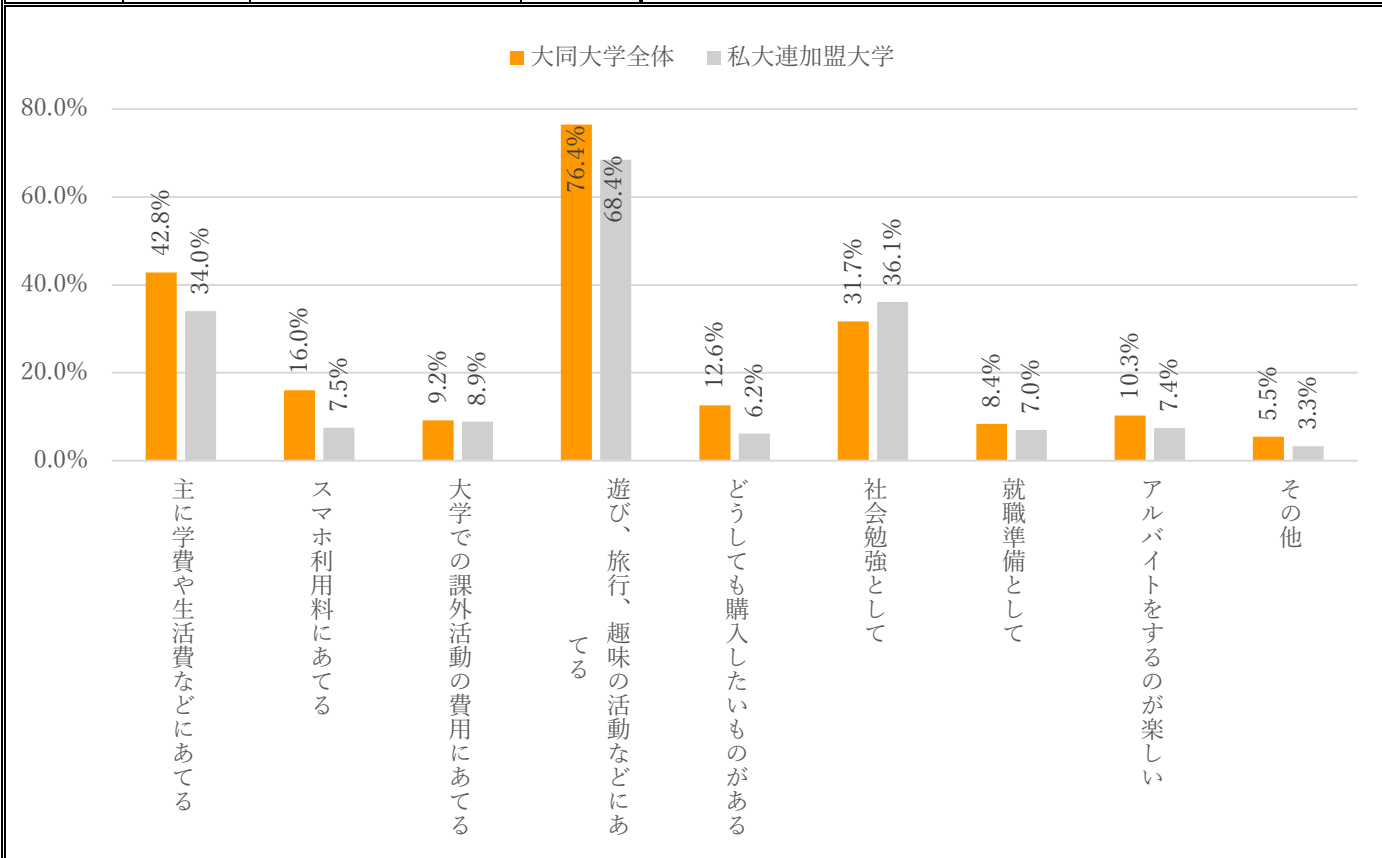
<本学の各学年の平均>



「～5時間」と回答した学生が最も多い

「～5時間」と回答した学生の割合が最も高くなった。

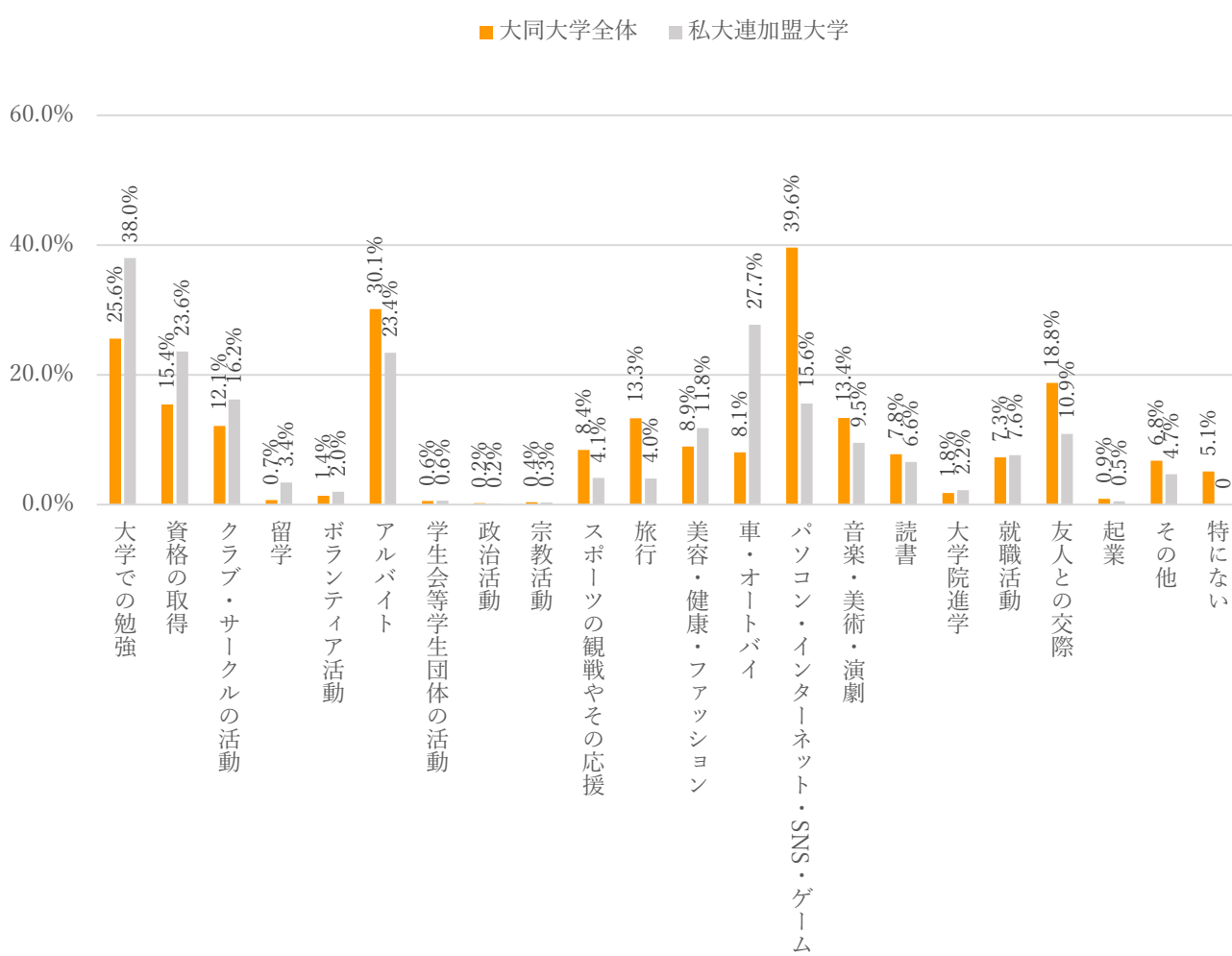
区分	19生	過年度,20生,21生,22生	23生	アルバイトをする動機・理由は何ですか。
設問No.	16	17	7	



「遊び、旅行、趣味の活動などにあてる」と回答した学生が最も多い

アルバイトをする理由のうち、最も割合が高かったのは、「遊び、旅行、趣味の活動などにあてる」で、19 生以上(卒業時)が 64.8%、20 生及び過年度生(3 年次末)が 62.4%、21 生(2 年次末)が 63.4%、22 生(1 年次末)が 59.1%、23 生(新入時)が 28.5%となった。全国平均は 68.4%であった。次いで、「主に学費や生活費などにあてる」と回答した学生の割合が高い。

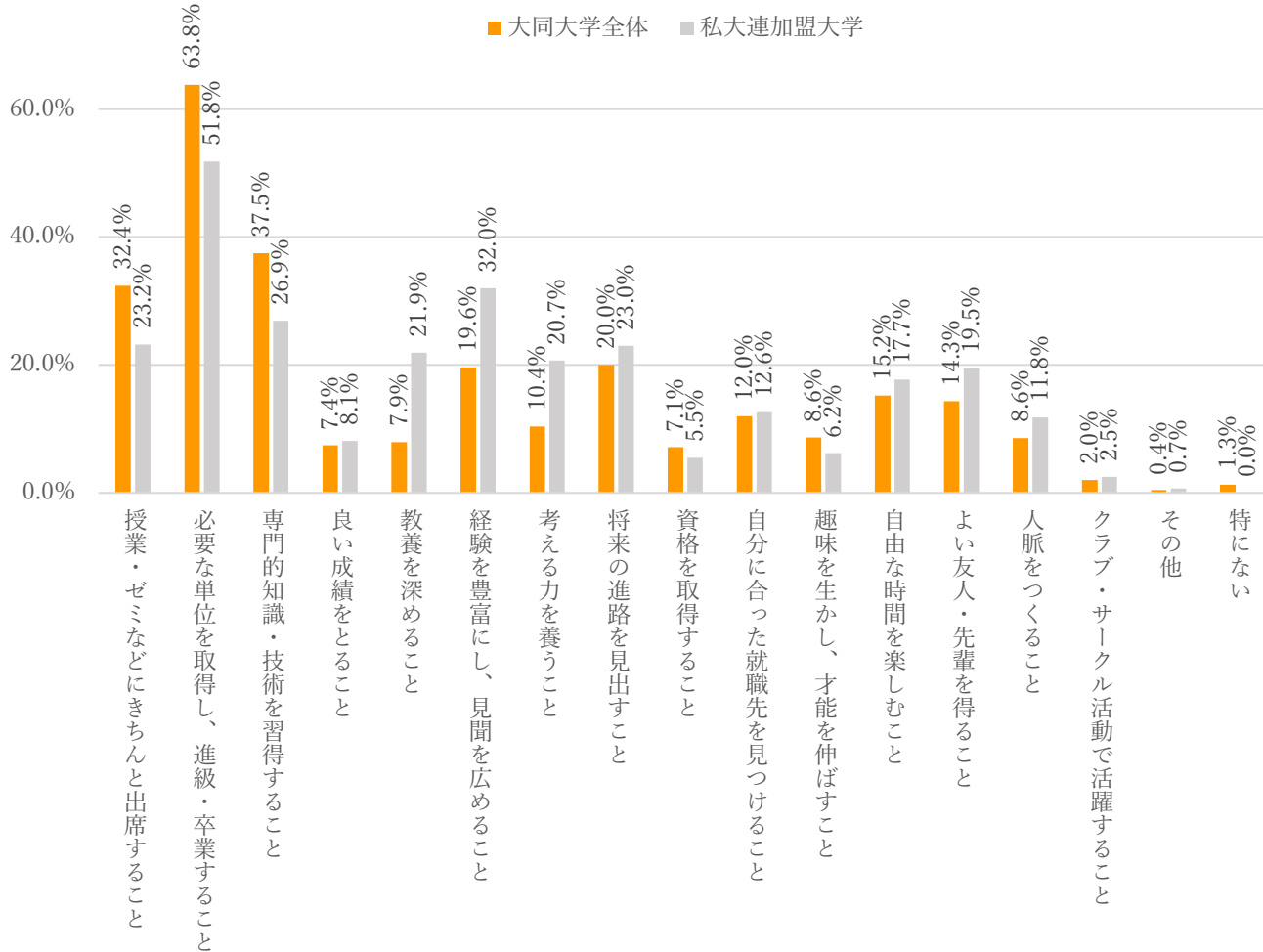
区分	19生	過年度,20生,21生,22生	23生	現在、あなたが興味や関心を持って熱心に取り組んでいることは次のどれですか。
設問No.	17	18	—	



「パソコン・インターネット・SNS・ゲーム」と回答した学生が最も多い

「パソコン・インターネット・SNS・ゲーム」と回答した学生の割合が最も高く、19生以上(卒業時)が38.7%、20生及び過年度生(3年次末)が41.1%、21生(2年次末)が38.4%、22生(1年次末)が39.9%となった。全国平均の15.6%と比較すると、本学学生の「パソコン・インターネット・SNS・ゲーム」への興味・関心の高さがうかがえる結果となった。

区分	19生	過年度,20生,21生,22生	23生	大学生活の中で大切だと思っていることは何ですか。
設問No.	18	19	8	

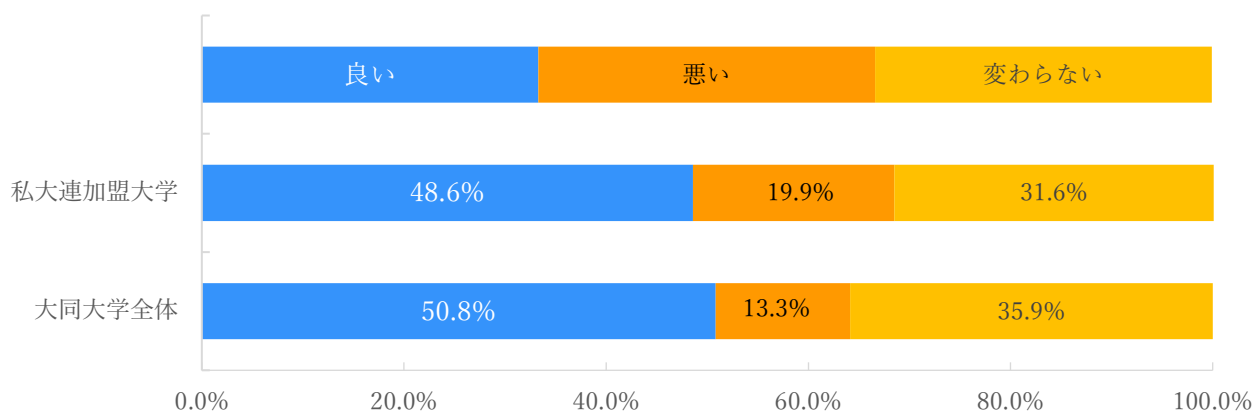


「必要な単位を取得し、進級・卒業すること」と回答した学生が最も多い

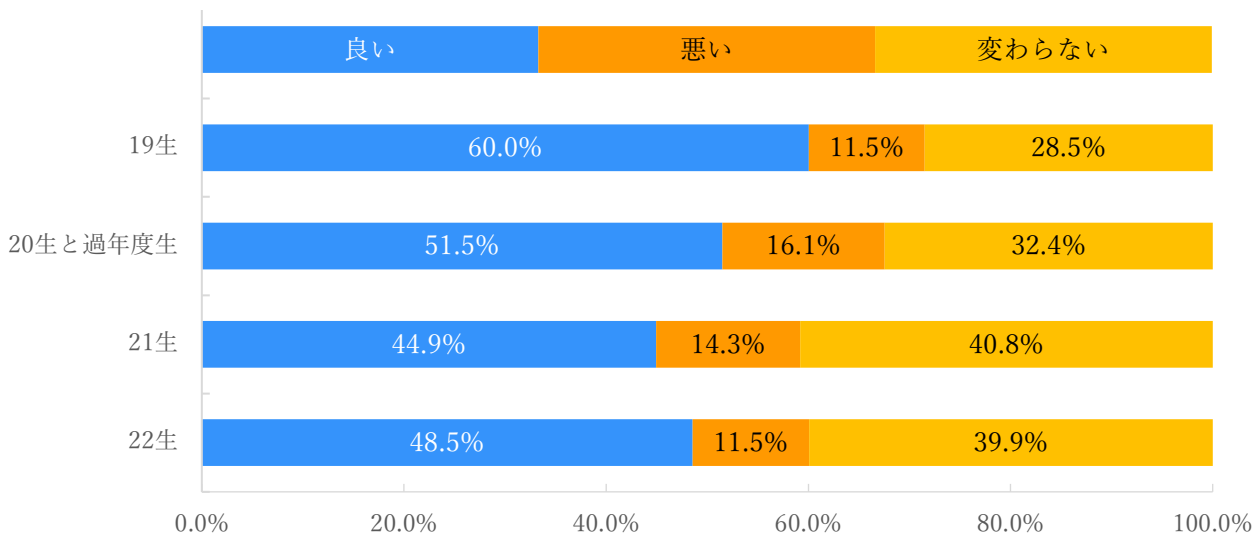
「必要な単位を取得し、進級・卒業すること」と回答した学生の割合が最も高く、19 生以上(卒業時)が 58.6%、20 生及び過年度生(3 年次末)が 55.4%、21 生(2 年次末)が 61.9%、22 生(1 年次末)が 65.4%、23 生(新入時)が 72.2%となり、いずれも全国平均の 51.8%を上回った。

次いで「専門的知識・技術を習得すること」と回答した学生の割合が高く、19 生以上(卒業時)が 27.7%、20 生及び過年度生(3 年次末)が 36.8%、21 生(2 年次末)が 36.5%、22 生(1 年次末)が 41.3%、23 生(新入時)が 40.8%となり、いずれも全国平均の 26.9%を上回った。

区分	19生	過年度,20生,21生,22生	23生	あなたは、大学生になってからの自分の心身の状態をどう感じていますか。
設問No.	19	20	—	



<本学の各学年の平均>

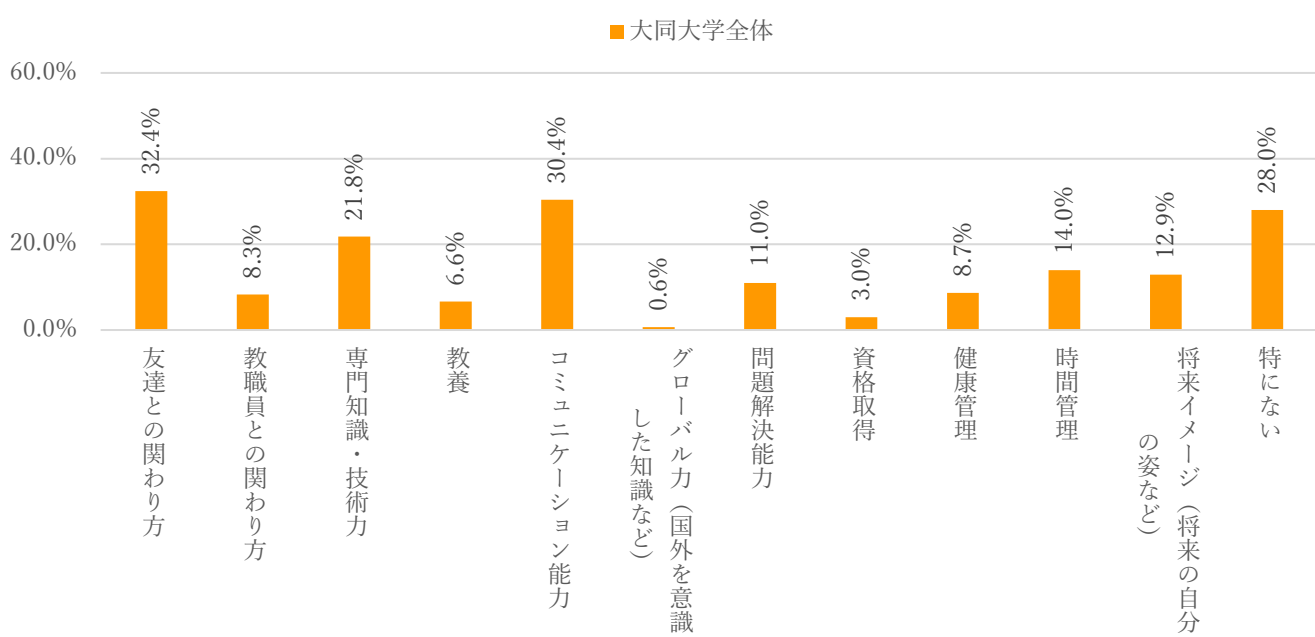


「悪い」は全国平均を下回る

自身の心身の状態について「悪い」と回答した学生の割合は、19生以上(卒業時)が11.5%、20生及び過年度生(3年次末)が16.1%、21生(2年次末)が14.3%、22生(1年次末)が11.5%であり、全国平均の19.9%を下回っている。

なお、「良い」と回答した学生の割合は、19生以上(卒業時)が60.0%、20生及び過年度生(3年次末)が51.5%、21生(2年次末)が44.9%、22生(1年次末)が48.5%となり、21生(2年次末)が最も低い結果となった。全国平均は48.6%である。

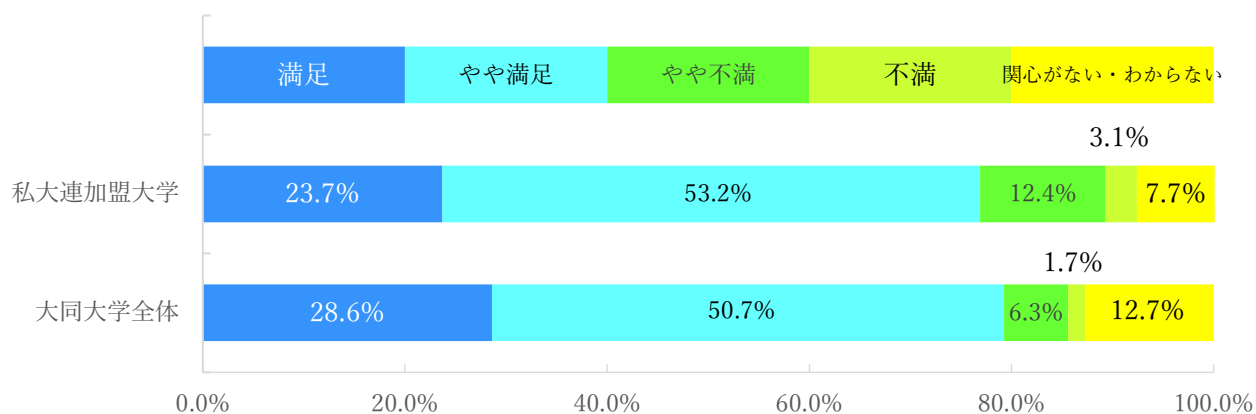
区分	19生	過年度,20生,21生,22生	23生	昨年と比べて自信が持てるようになったのは何ですか。
設問No.	20	21	—	



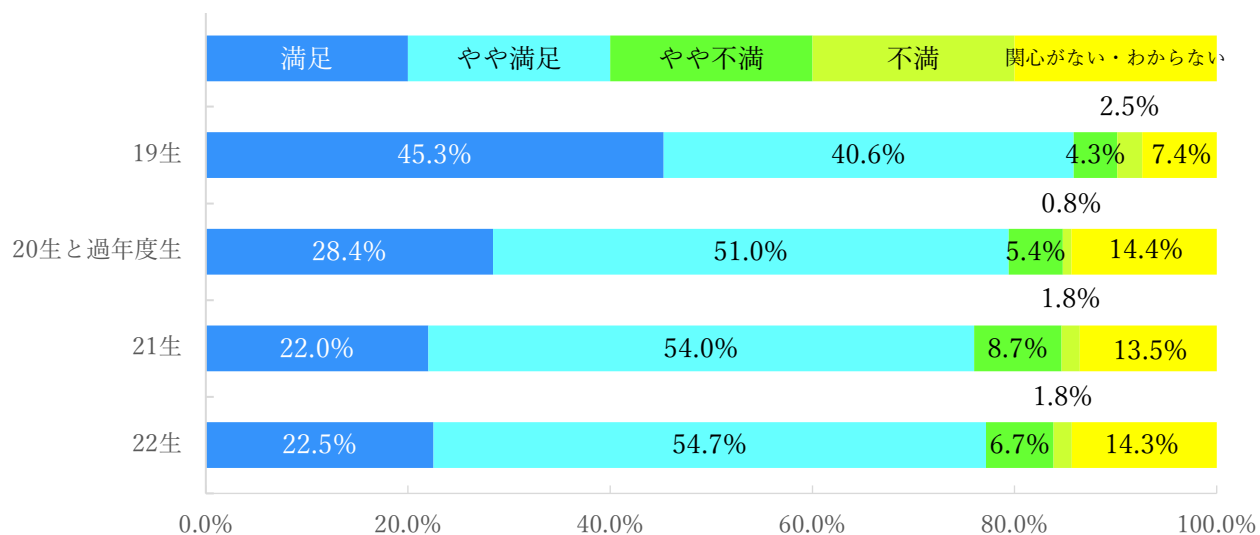
3 年次以降において、「専門知識・技術力」、「コミュニケーション能力」、「将来イメージ(将来の自分の姿など)」の項目を挙げる割合が増えている

各学年とも30%以上が「友達との関わり方」を挙げている。また、21生(2年次末)と20生及び過年度生(3年次末)を境に、「専門知識・技術力」、「コミュニケーション能力」、「将来イメージ(将来の自分の姿など)」を挙げる割合が大きくなっている(それぞれ、20.2%→24.6%、28.0%→35.1%、8.7%→18.2%)。一方で、「特にない」を回答する者も、19生以上(卒業時)で21.9%、20生及び過年度生(3年次末)で23.4%、21生(2年次末)で31.2%、22生(1年次末)で33.5%いる。

区分	19生	過年度,20生,21生,22生	23生	【学科・専攻の教員】に対する満足度を教えてください。
設問No.	21	22	—	



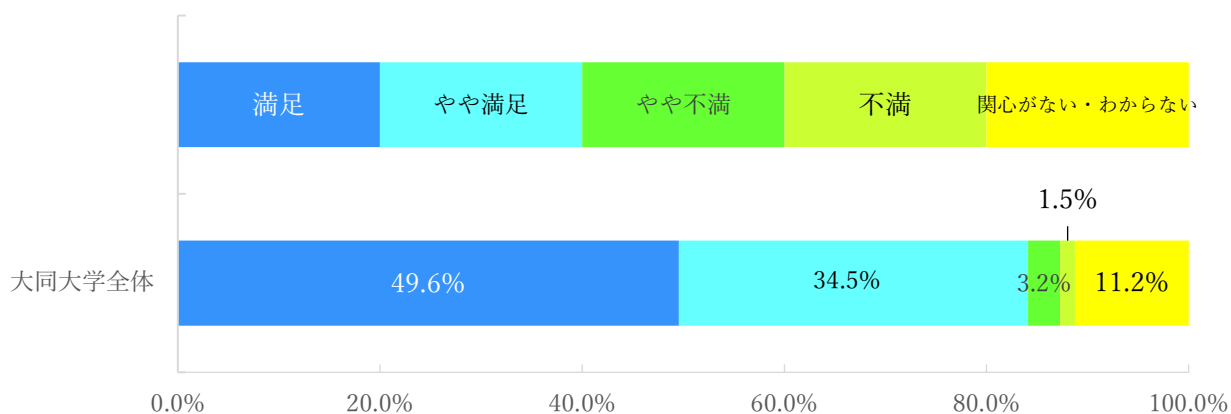
<本学の各学年の平均>



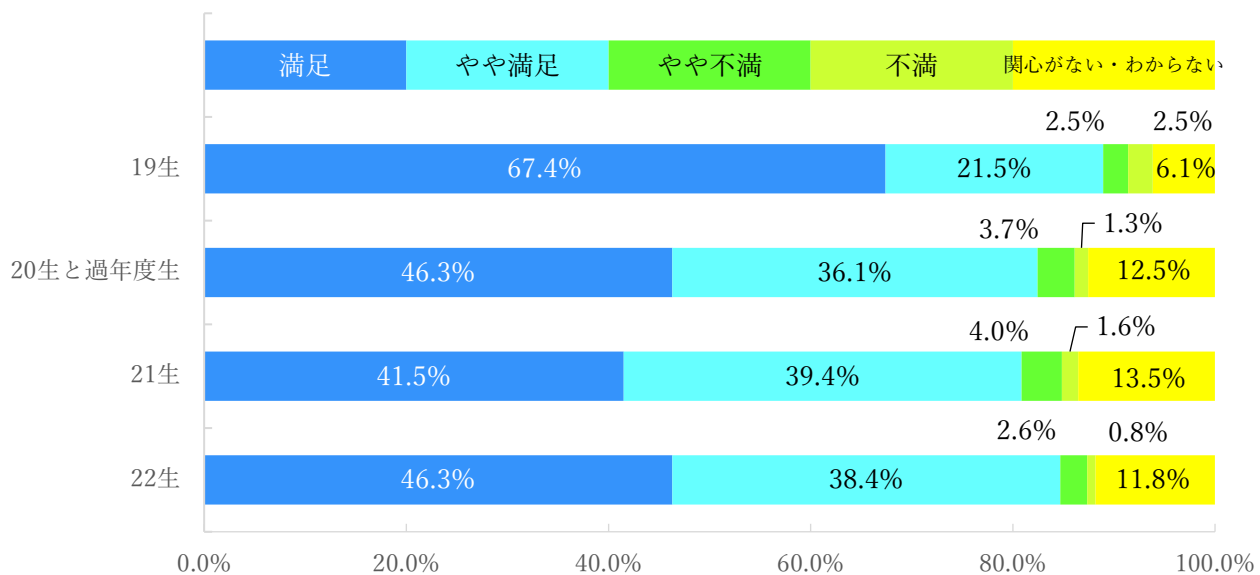
卒業時の満足度が最も高い

学科・専攻の教員に対する満足度について、「満足」「やや満足」を合計した「満足群」で見ると本学は、19 生以上(卒業時)が 85.9%、20 生及び過年度生(3 年次末)が 79.4%、21 生(2 年次末)が 76.0%、22 生(1 年次末)が 77.2%で、卒業時の満足度が最も高い結果となった。全国平均の「満足群」の回答は 76.9%である。

区分	19生	過年度,20生,21生,22生	23生	【主指導教員】に対する満足度を教えてください。
設問No.	22	23	—	



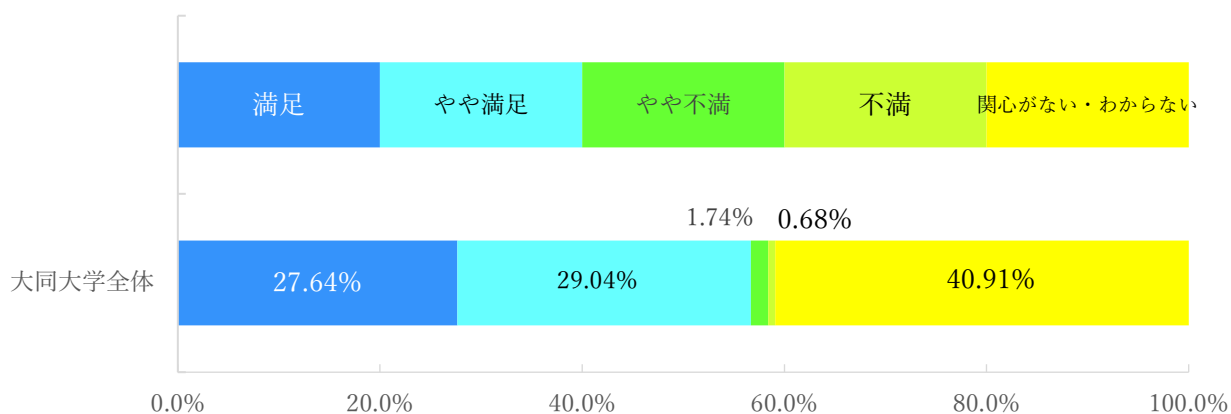
<本学の各学年の平均>



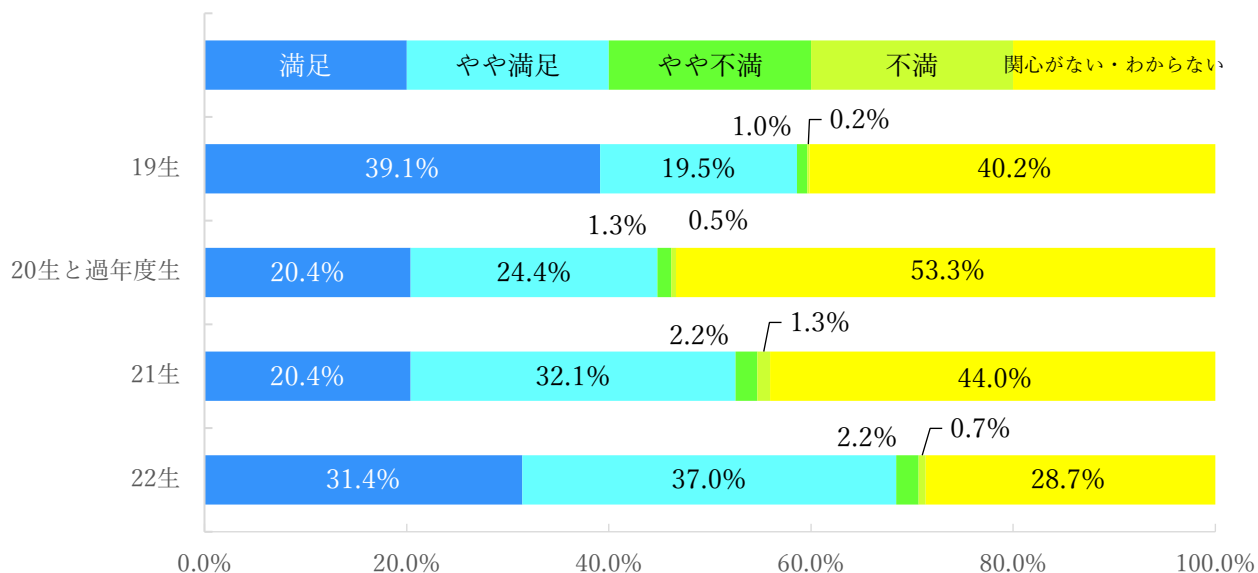
卒業時の満足度が最も高い

主指導教員に対する満足度について調査した本項目では、「満足」との回答は、19 生以上(卒業時)が 67.4%、20 生及び過年度生(3 年次末)が 46.3%、21 生(2 年次末)が 41.5%、22 生(1 年次末)が 46.3%で、卒業時の満足度が圧倒的に高い結果となった。卒業研究における主指導教員とのかかわりの深さがうかがえる結果となった。

区分	19生	過年度,20生,21生,22生	23生	【副指導教員】に対する満足度を教えてください。
設問No.	23	24	—	



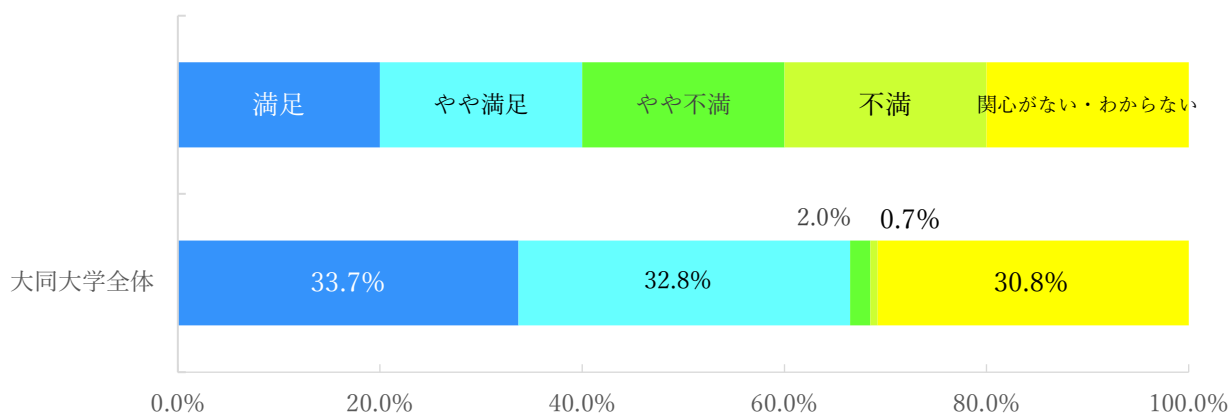
<本学の各学年の平均>



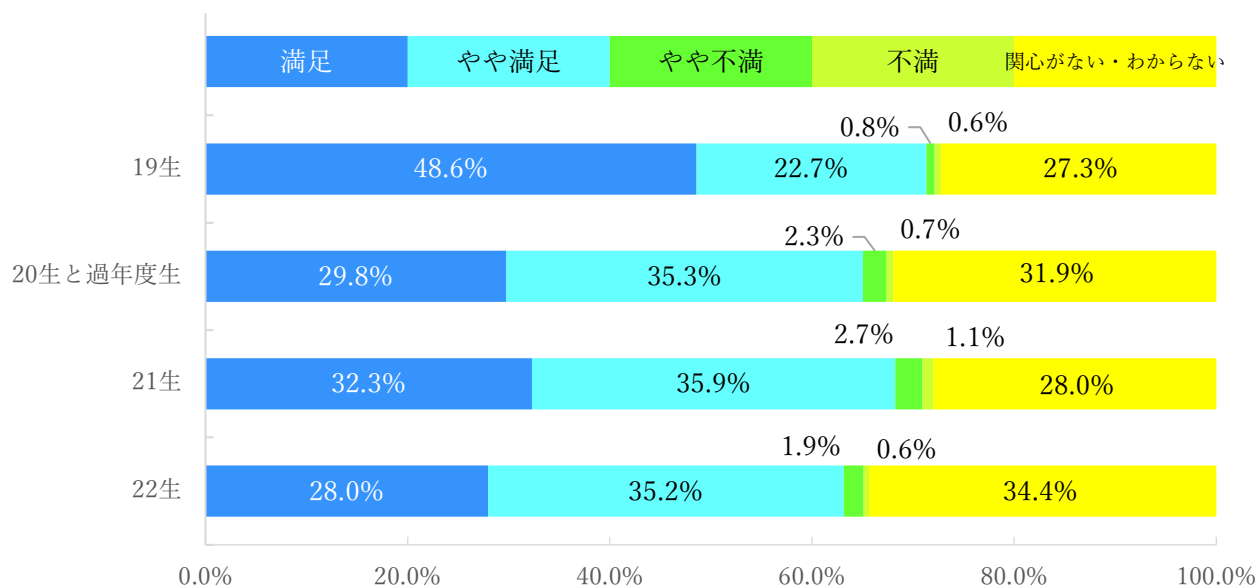
1 年次末の満足度が最も高い

副指導教員に対する満足度について、「満足」「やや満足」を合計した「満足群」で見ると、19 生以上(卒業時)が 58.6%、20 生及び過年度生(3 年次末)が 44.8%、21 生(2 年次末)が 52.5%、22 生(1 年次末)が 68.4%で、1 年次末の満足度が最も高い結果となった。一方で、「関心がない・わからない」と答えた割合が 19 生以上(卒業時)、20 生及び過年度生(3 年次末)、21 生(2 年次末)において 40%を超えており、2年次以降では、関わりが少ない学生がいることがうかがえる。

区分	19生	過年度,20生,21生,22生	23生	【技術補助員】に対する満足度を教えてください。
設問No.	24	25	—	



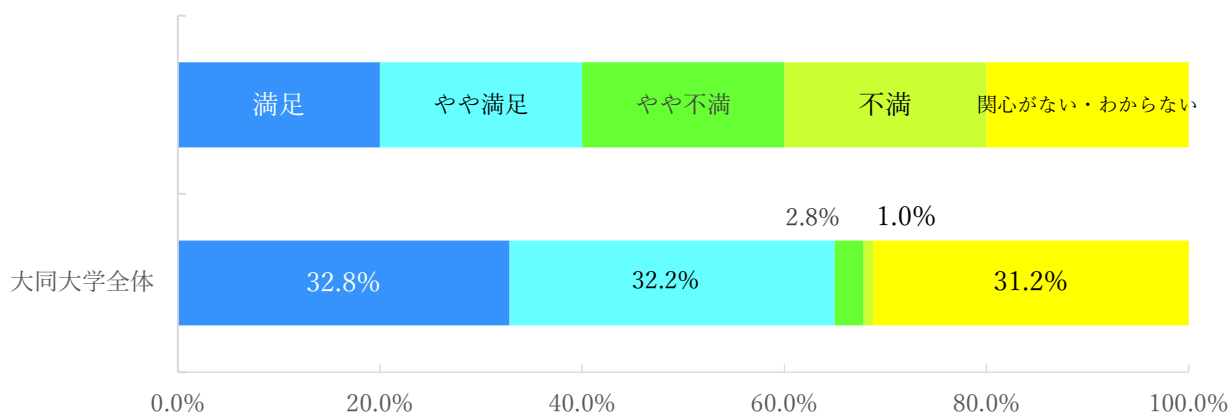
<本学の各学年の平均>



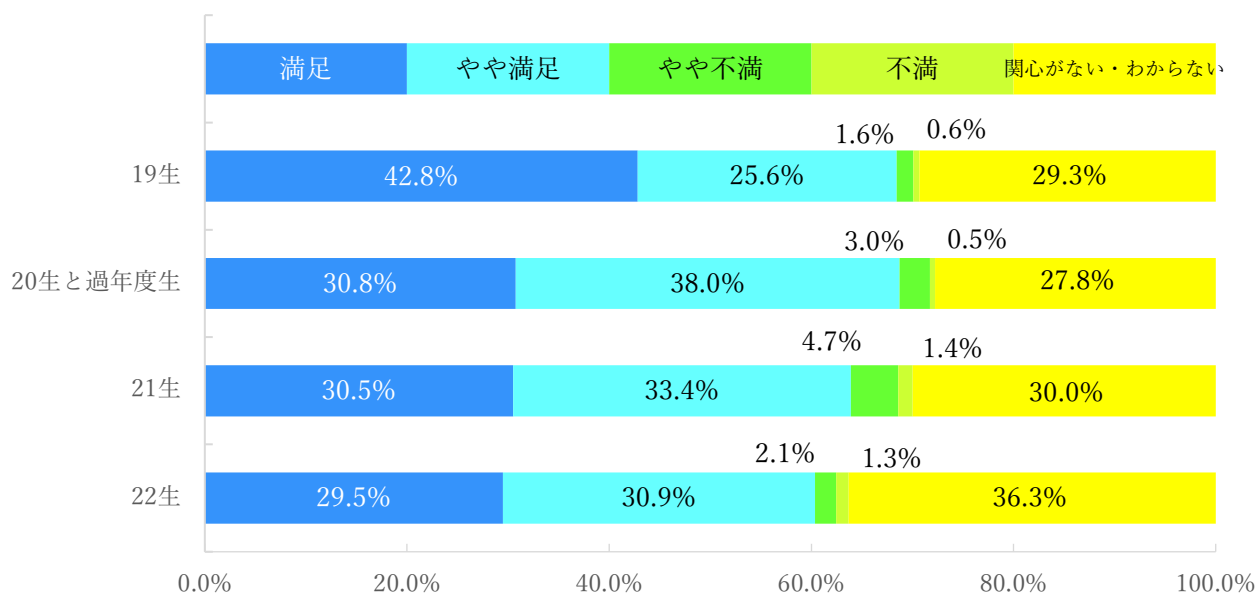
卒業時の満足度が最も高い

技術補助員に対する満足度について、「満足」との回答は、19生以上(卒業時)が48.6%、20生及び過年度生(3年次末)が29.8%、21生(2年次末)が32.3%、22生(1年次末)が28.0%であり、卒業時の満足度が高い結果となった。

区分	19生	過年度,20生,21生,22生	23生	【TA・SA】に対する満足度を教えてください。
設問No.	25	26	—	



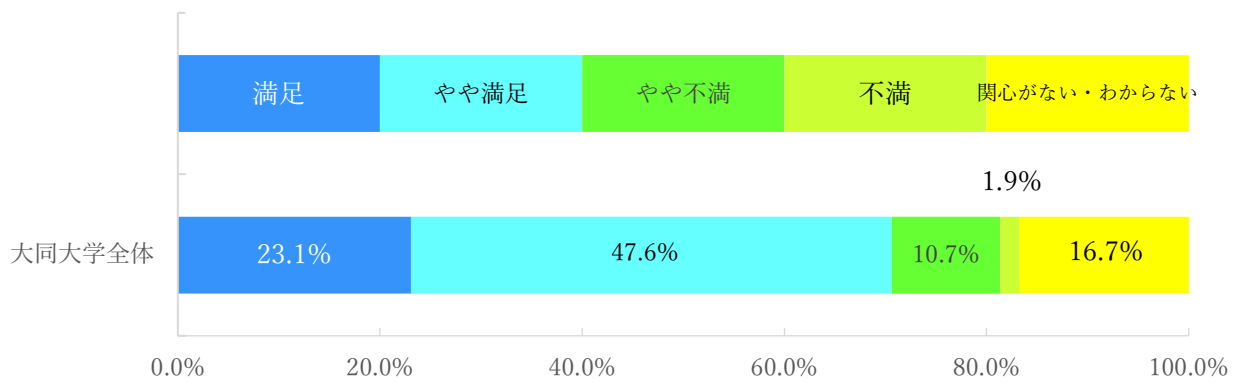
<本学の各学年の平均>



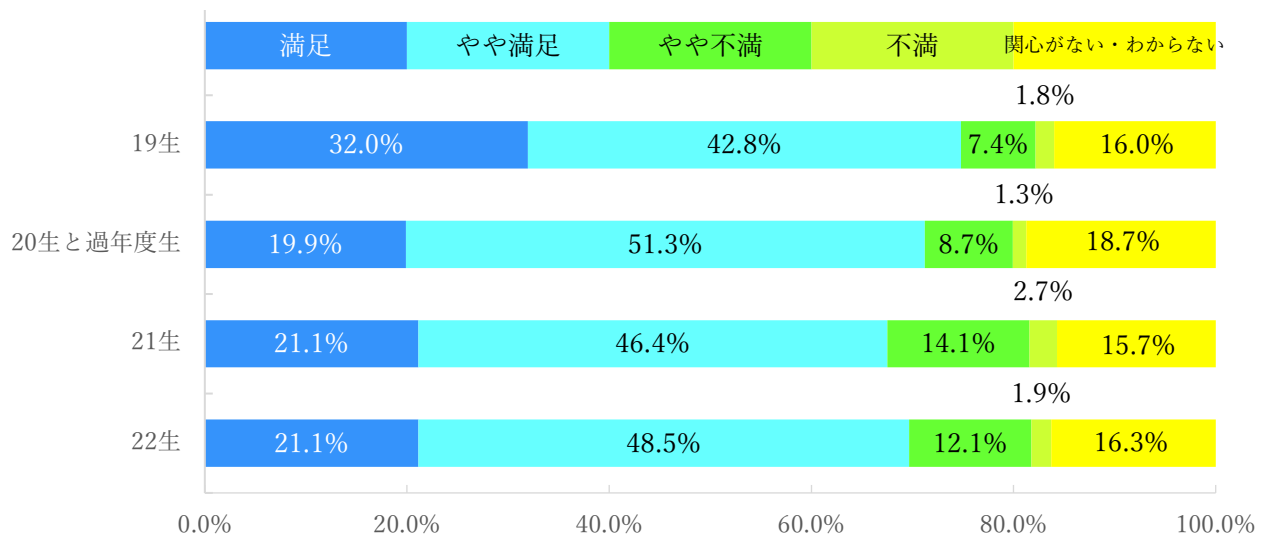
卒業時の満足度が最も高い

TA・SA に対する満足度について、「満足」との回答は、19 生以上(卒業時)が 42.8%、20 生及び過年度生(3 年次末)が 30.8%、21 生(2 年次末)が 30.5%、22 生(1 年次末)が 29.5%であり、卒業時の満足度が高い結果となった。特に、「満足」「やや満足」を合計した「満足群」が 19 生以上(卒業時)と 20 生及び過年度生(3 年次末)において、同じ 68%であることから、上位学年になるほど、満足度が高くなっていることがうかがえる。

区分	19生	過年度,20生,21生,22生	23生	【カリキュラムの構成】に対する満足度を教えてください。
設問No.	26	27	—	



<本学の各学年の平均>



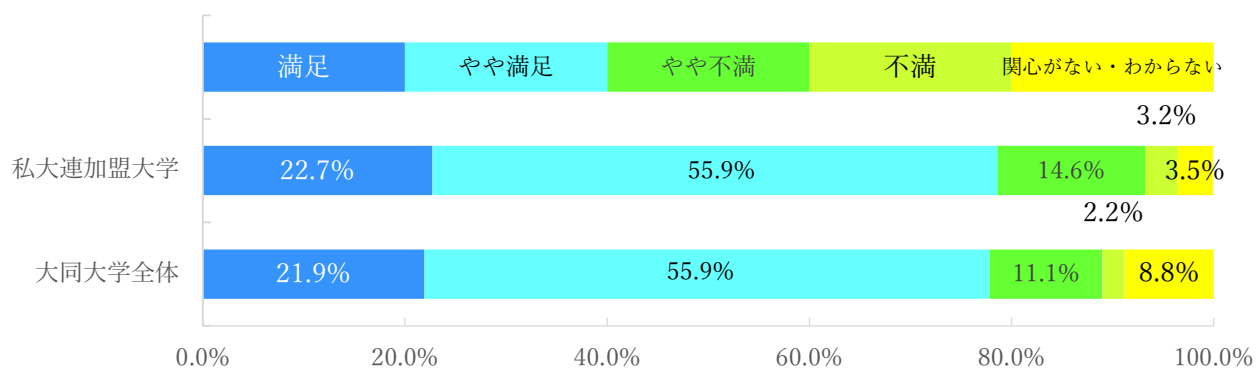
学生からの満足は得られているが、1年次におけるカリキュラムの構成などの解説も必要か

私大連とも比較すると若干満足度の数値は低いですが、不満の数値は低いことから、カリキュラムにも納得している状況が考えられる。

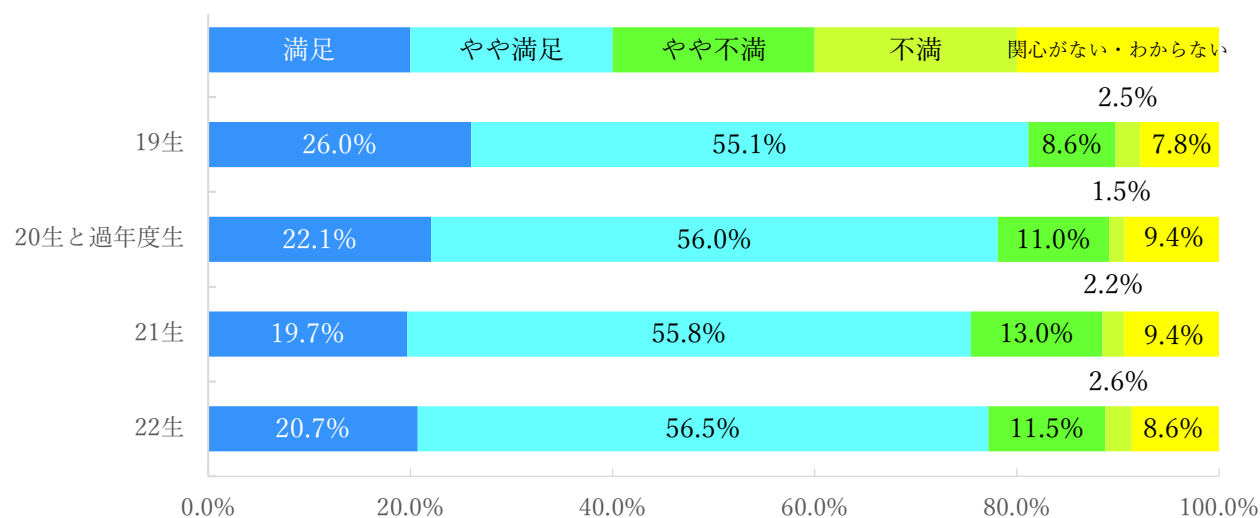
※学生がどこまでカリキュラムを理解したうえでの回答はわからないため、不満の数値で判断することとした。

本学のカリキュラムの組み立て方として、1年次は入門基礎・教養科目が多く設定され、学年が上がっていくごとに、基礎・教養科目が減少し、専門科目の比重が多くなる。学生の不満が3・4年次(卒業時)に低くなったのは、専門系科目が充実し、学科・専攻の独自性が明確になってきたことが影響しているのではないかとと思われる。

区分	19生	過年度,20生,21生,22生	23生	【授業】に対する満足度を教えてください。
設問No.	27	28	—	



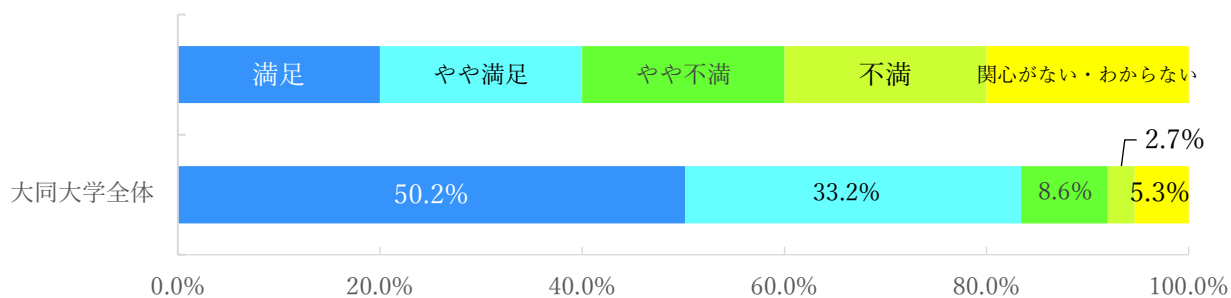
<本学の各学年の平均>



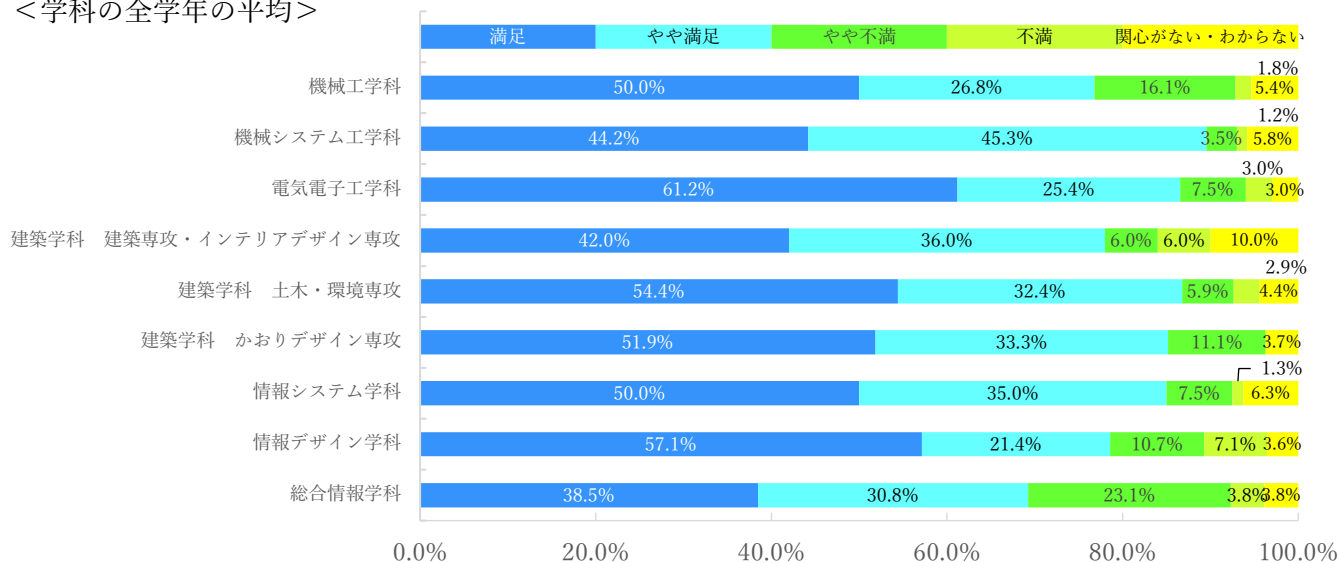
学生からの満足は得られている

私大連加盟大学と比較してもほぼ遜色はないが、不満は7%本学が少ないことから本学の授業は学生にしっかりと受け入れられていると思われる。特に4年次や3年次の学生はコロナ禍により、大学へ登校することができなかった学年でもあるが、そういった学生からも満足を得られていると思われ、コロナ禍での本学の対応は一定の評価が得られていたと思われる。

区分	19生	過年度,20生,21生,22生	23生	【卒業研究】に対する満足度を教えてください。
設問No.	28	—	—	



<学科の全学年の平均>

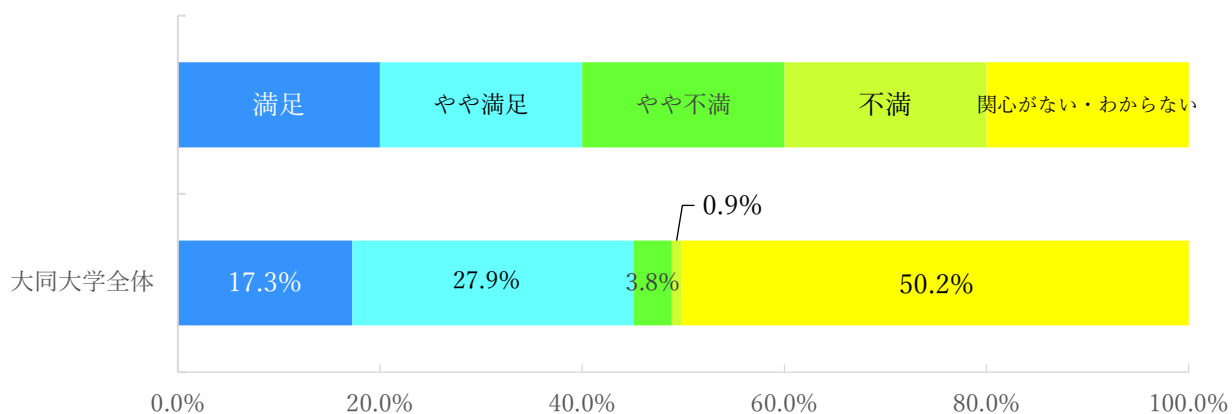


満足が得られている

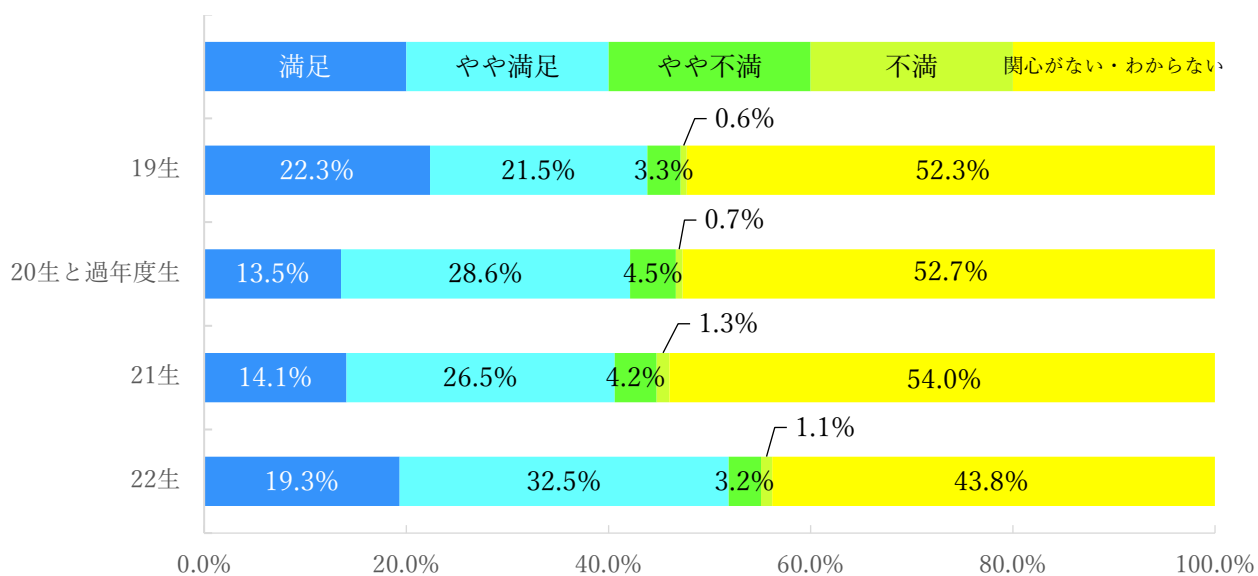
「満足」「やや満足」を合計した「満足群」は、全体で83%、工学部の「満足群」は84%、情報学部「満足群」は80%という結果である。

教育の総括である「卒業研究」が十分な成果をもたらしていることは、他のアンケート項目(4年次生の【主指導教員】に対する満足度及び【授業】に対する満足度)の結果にも表れている。

区分	19生	過年度,20生,21生,22生	23生	【オフィスアワー】に対する満足度を教えてください。
設問No.	29	29	—	



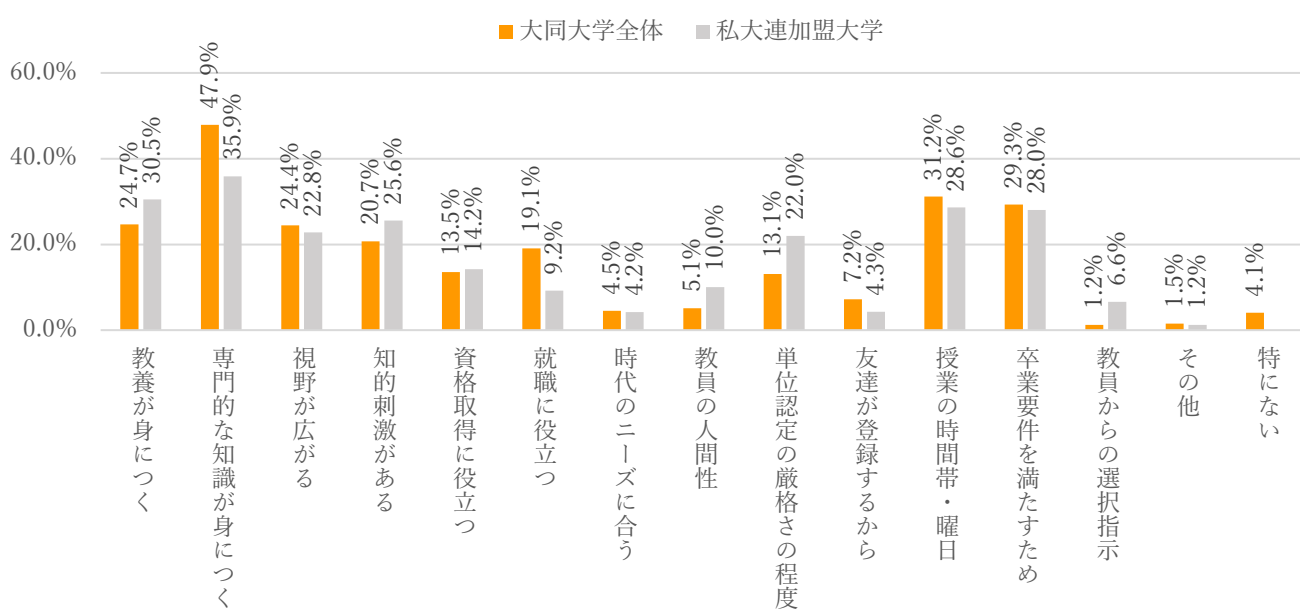
<本学の各学年の平均>



一定の条件下では満足が得られている。

全学年を見て、半数近くが「関心がない」を占めているが、不満も少なく満足度も40%以上をしめているため、この制度を利用している(できている)学生の満足はしっかりと得られていると思われる。制度の周知が低いというよりは、制度を利用する必要がない状況による結果と思われる。

区分	19生	過年度,20生,21生,22生	23生	科目を履修登録する時に、重視する要素は何ですか。
設問No.	30	30	9	



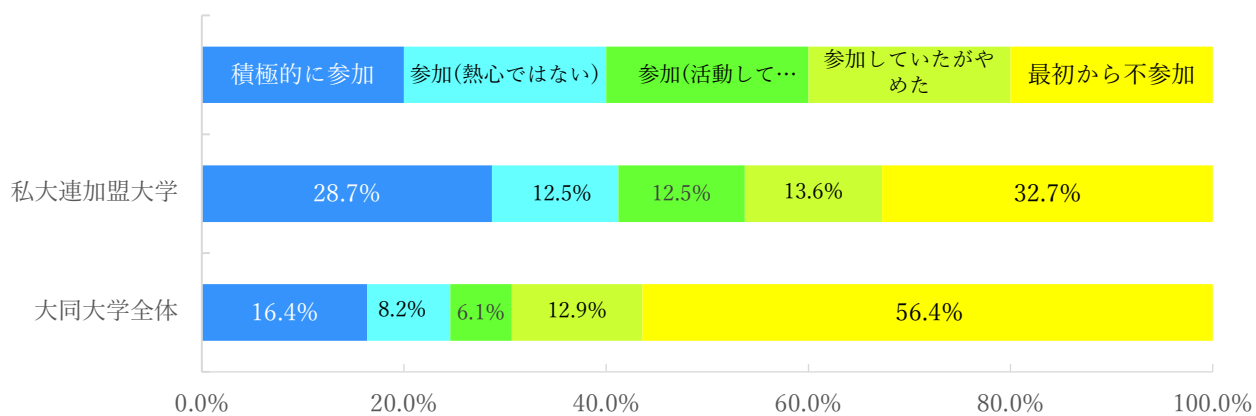
「専門的な知識」は常に求められている

本学の傾向として、学生が重視している項目としては私大連加盟大学の結果と大きな違いはないが、学年によって傾向に違いが生じている。

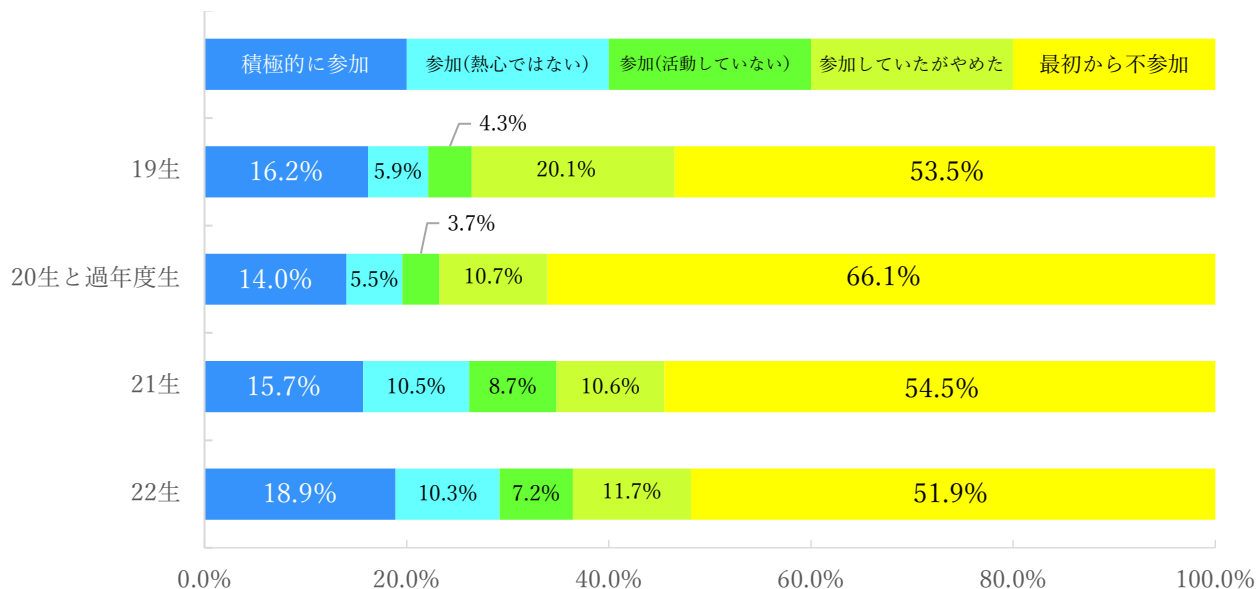
入学時では、本人が抱く大学への希望やイメージからの結果からの内容と思われる。1年次末からは、1年経験した大学生活に加え、私生活の要素も加わり、「授業の曜日・時間」が上位に来ていると思われる。2年次末も同様と思われる。3年次末では、おそらく順調に単位を取得してきた学生なども増え、時間割にもかなりの余裕がでてきている状況が想定される。そういった学生の多くは、より効率よく時間を使用したいため、「授業の曜日・時間」を意識するのではないかとと思われる。卒業予定者は、当然、卒業を最優先で考えるため、このような結果となると思われる。

なお、カリキュラム構成の満足度などにも関連して、「専門的な知識」＝「学科独自の科目」を学ぶことは、学生の満足度に直結していると思われる。

区分	19生	過年度,20生,21生,22生	23生	課外活動(クラブ、サークル活動、ボランティアなど)に参加していますか。
設問No.	31	31	—	



<本学の各学年の平均>

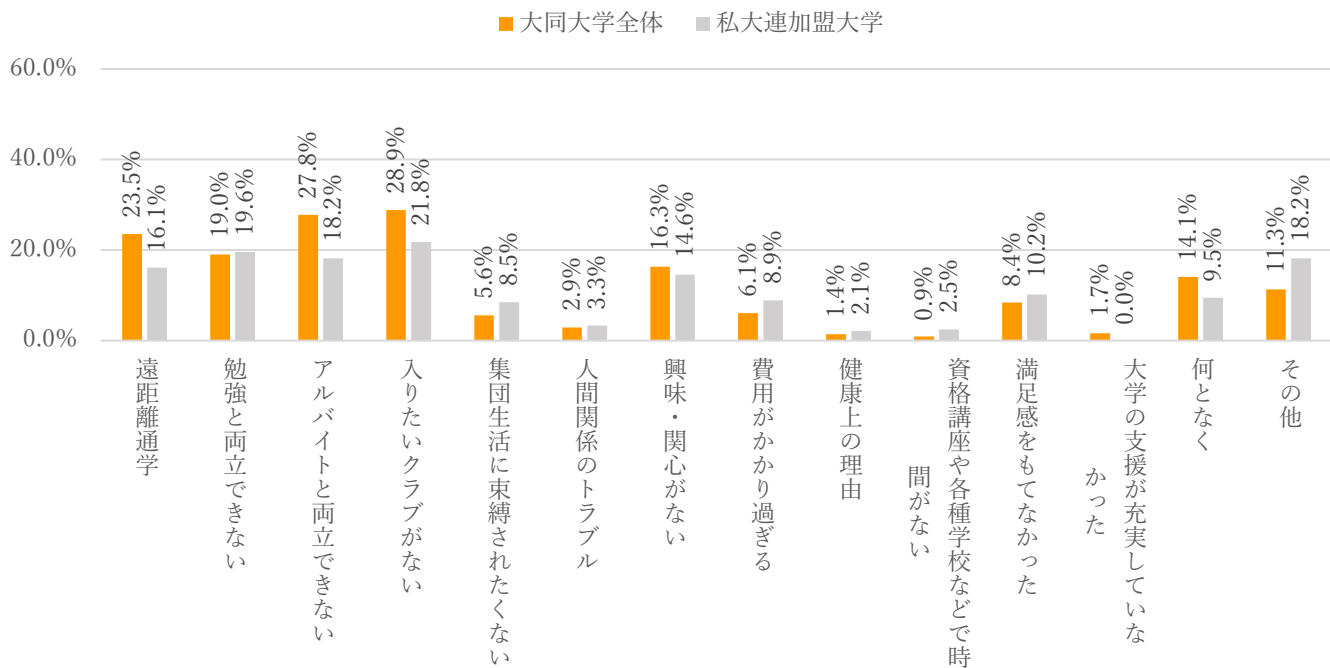


「最初から参加していない」と回答した学生が最も多い

「最初から参加していない」と回答した学生の割合が最も高く、19生以上(卒業時)が53.5%、20生及び過年度生(3年次末)が66.1%、21生(2年次末)が54.5%、22生(1年次末)が51.9%となり、いずれも全国平均の32.7%より非常に高い結果となった。

課外活動に参加する学生が増えるような取り組みを実施していく必要があるだろう。

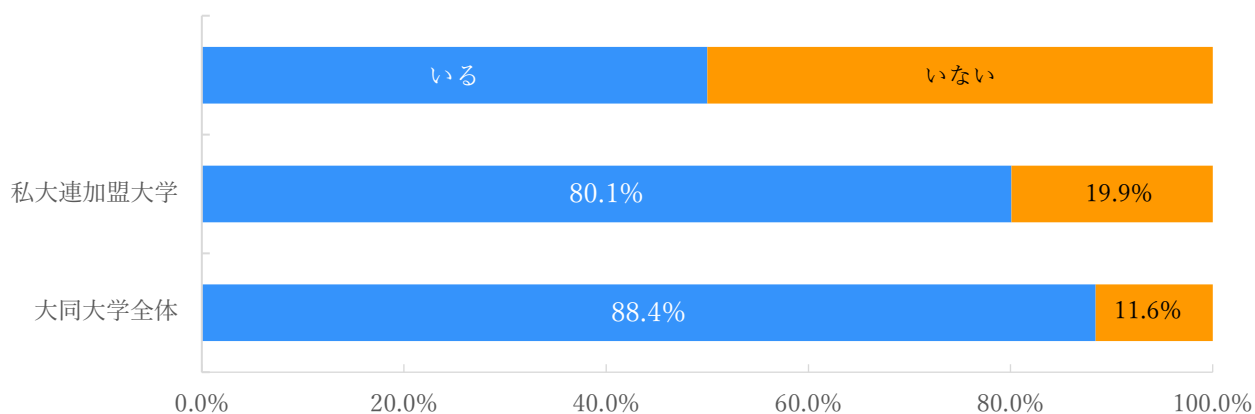
区分	19生	過年度,20生,21生,22生	23生	課外活動に参加していたがやめたまたは最初から参加していない理由を選んでください。
設問No.	32	32	—	



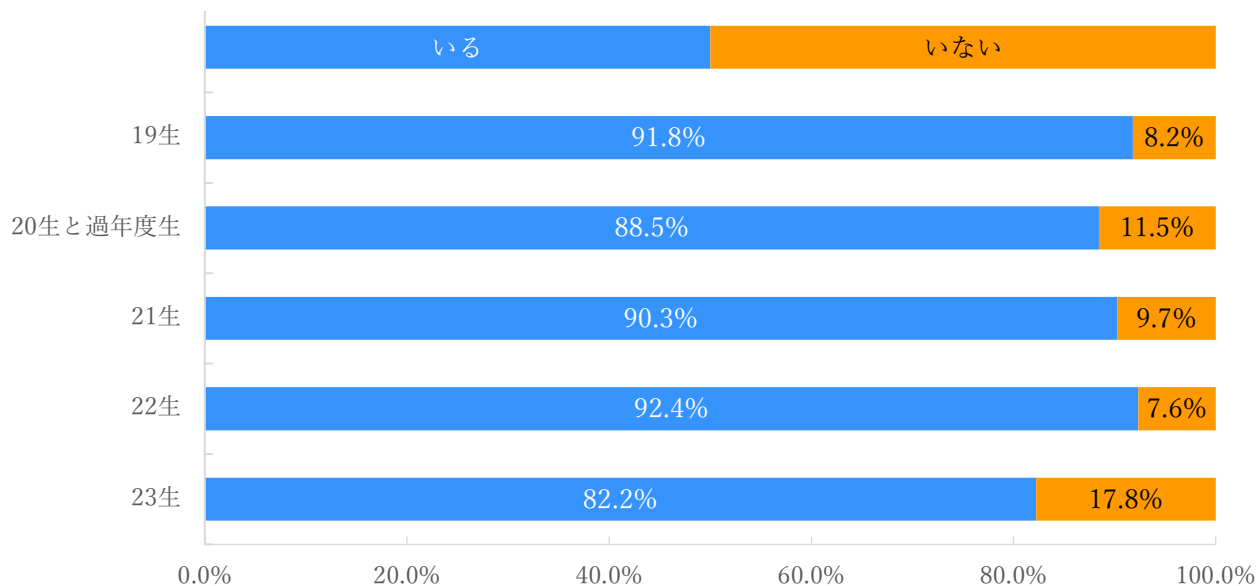
「入りたいクラブがない」「アルバイトと両立できない」と回答した学生が多い

「入りたいクラブがない」「アルバイトと両立できない」と回答した学生の割合が高く、全国平均とほぼ同等の結果となっている。

区分	19生	過年度,20生,21生,22生	23生	現在、自分のことを話せる友人がいますか。
設問No.	33	33	10	



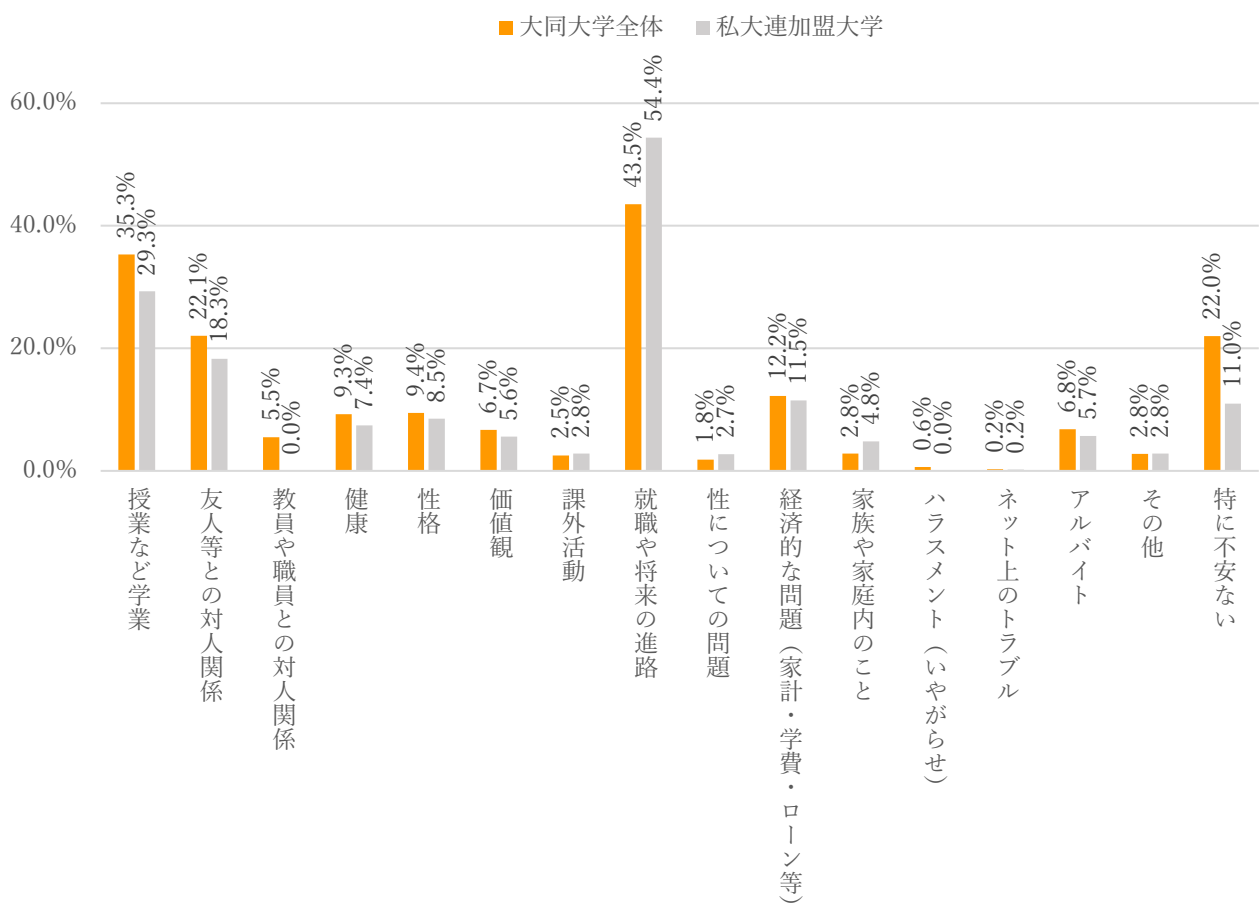
<本学の各学年の平均>



自分のことを話せる友人が「いる」と回答した学生は全国平均より高い

自分のことを話せる友人が「いる」と回答した学生の割合は、19 生以上(卒業時)が 91.8%、20 生及び過年度生(3 年次末)が 88.5%、21 生(2 年次末)が 90.3%、22 生(1 年次末)が 92.4%という結果となった。いずれも全国平均の 80.1%より高い結果となっている。

区分	19生	過年度,20生,21生,22生	23生	いま、あなたに不安や悩みがあるとすれば、それはどのようなものですか。
設問No.	34	34	11	

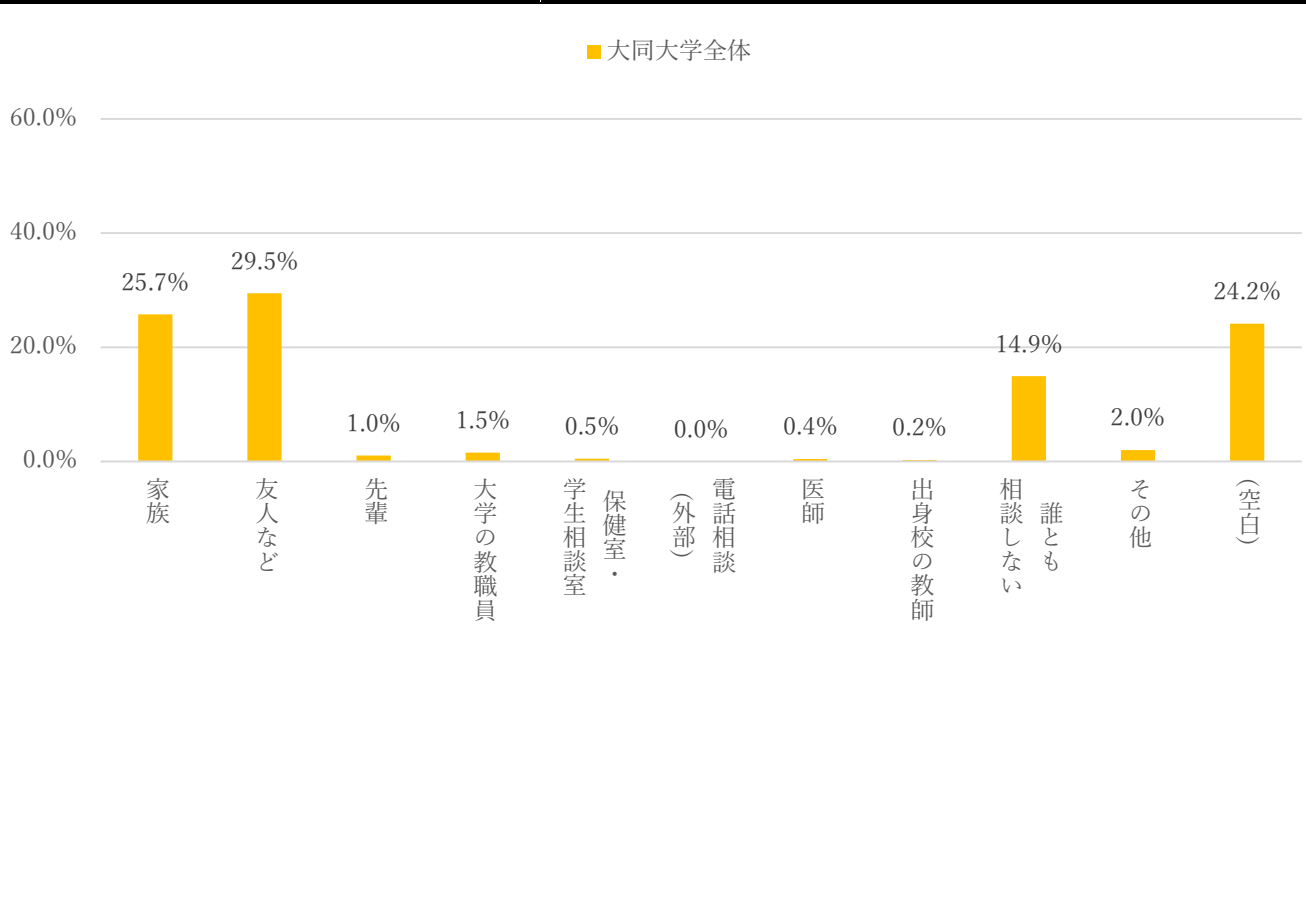


将来の進路や学業に不安がある

「就職や将来の進路」に対して不安や悩みがあると回答した学生の割合が最も高く、次いで「授業など学業」となっており、これは全国平均と同じ結果である。

なお、23生(新入時)については「授業など学業」「友人等との対人関係」と回答した学生が多い結果となった。

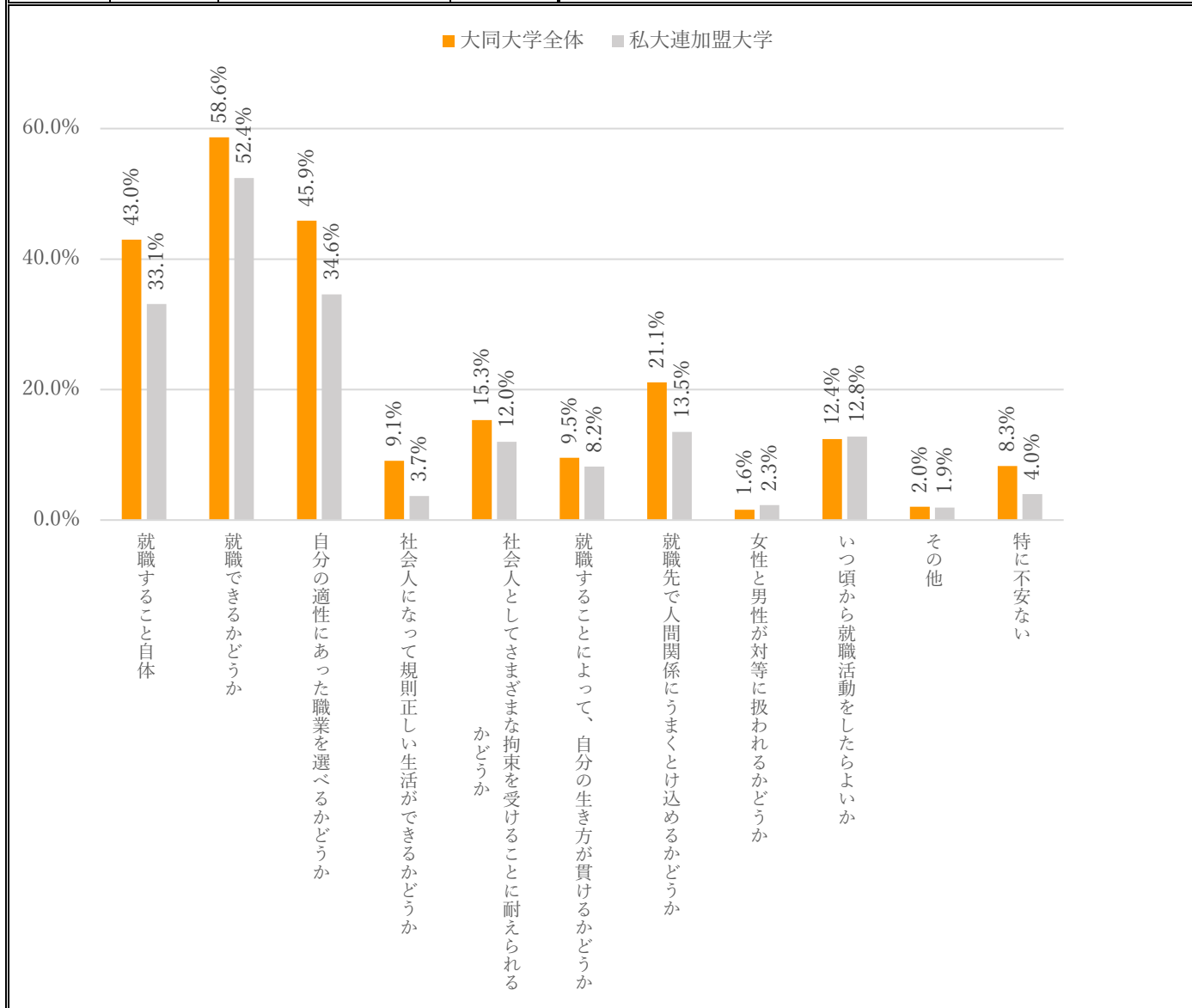
区分	19生	過年度,20生,21生,22生	23生	その不安や悩みについて誰に相談しましたか。または相談しよう と思っけていますか。主な相談相手を選んでください。
設問No.	35	35	12	



不安や悩みを友人や家族に相談

相談相手については「友人」「家族」と回答した学生の割合が高い結果となった。

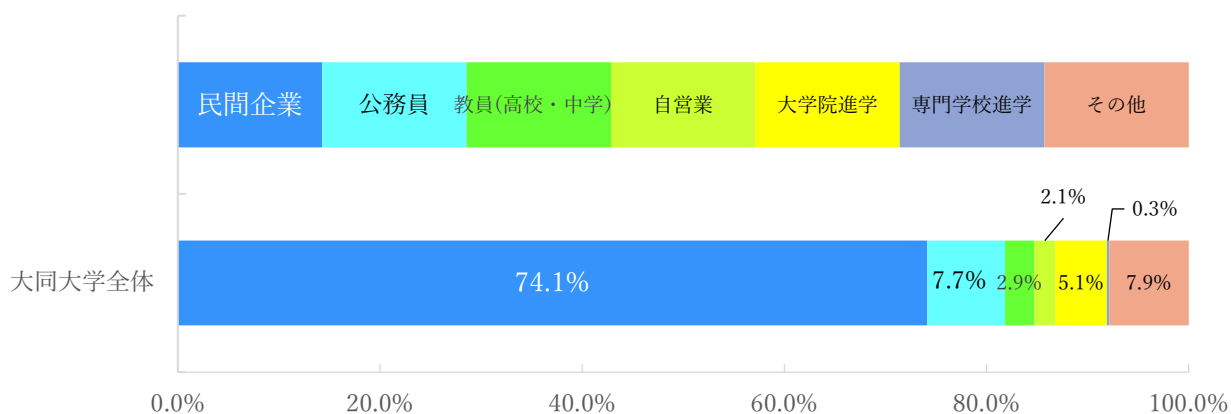
区分	19生	過年度,20生,21生,22生	23生	就職について次のような不安を感じることがありますか。
設問No.	—	36	13	



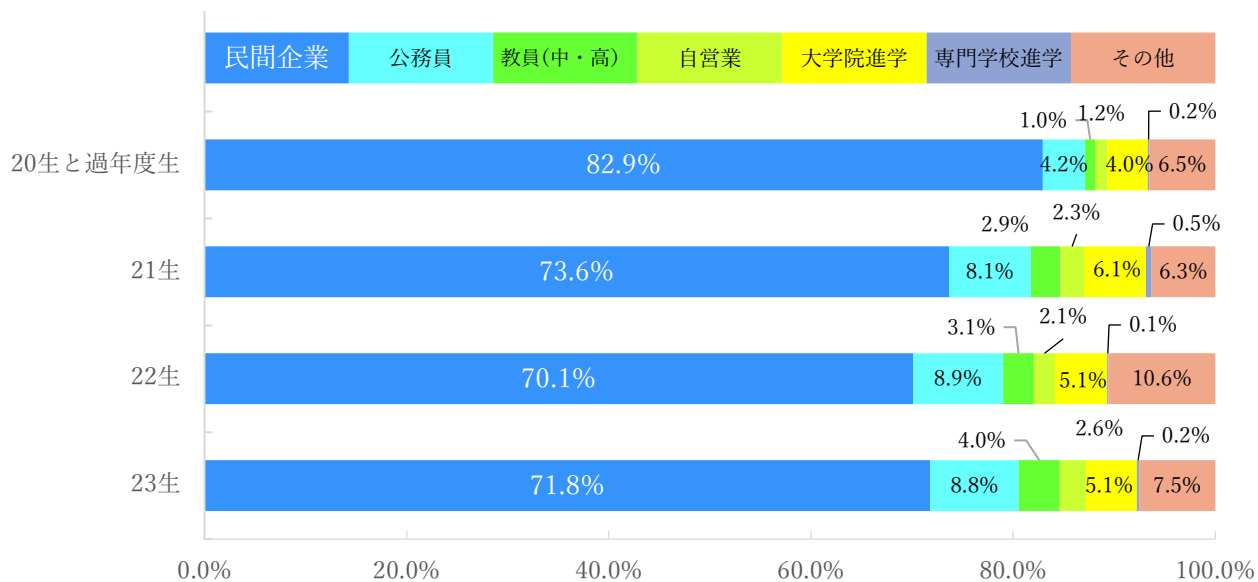
本学の学生特有の傾向に対する対応を考える必要

全体傾向として、ほぼ全ての項目において、全国平均より不安を感じるポイントが高い。入学年度別に見ると新入生から学年が進むにつれ不安が増しており、21生が最も高い。20生以上となると、インターンシップ等を経験し、学生によっては、内定を獲得している学生もいると思われることから、ポイントが急速に低下している。また、「自分の適性にあった職業を選べるかどうか」については全国平均との差が大きい。これらの要因としては、従来から問題とされてきた本学の学生気質である、「自信のなさ」からこのような結果になっていると推測される。このことが、他大学と比較した場合、早期からの就職の活動量が低い(インターンシップの参加率が低い、動き出しが遅い)ことに繋がり、結果として本学の就職状況に影響していると思われることから、これに対応をした対策を進める必要がある。

区分	19生	過年度,20生,21生,22生	23生	どのような進路を選択したいと考えていますか。
設問No.	—	37	14	



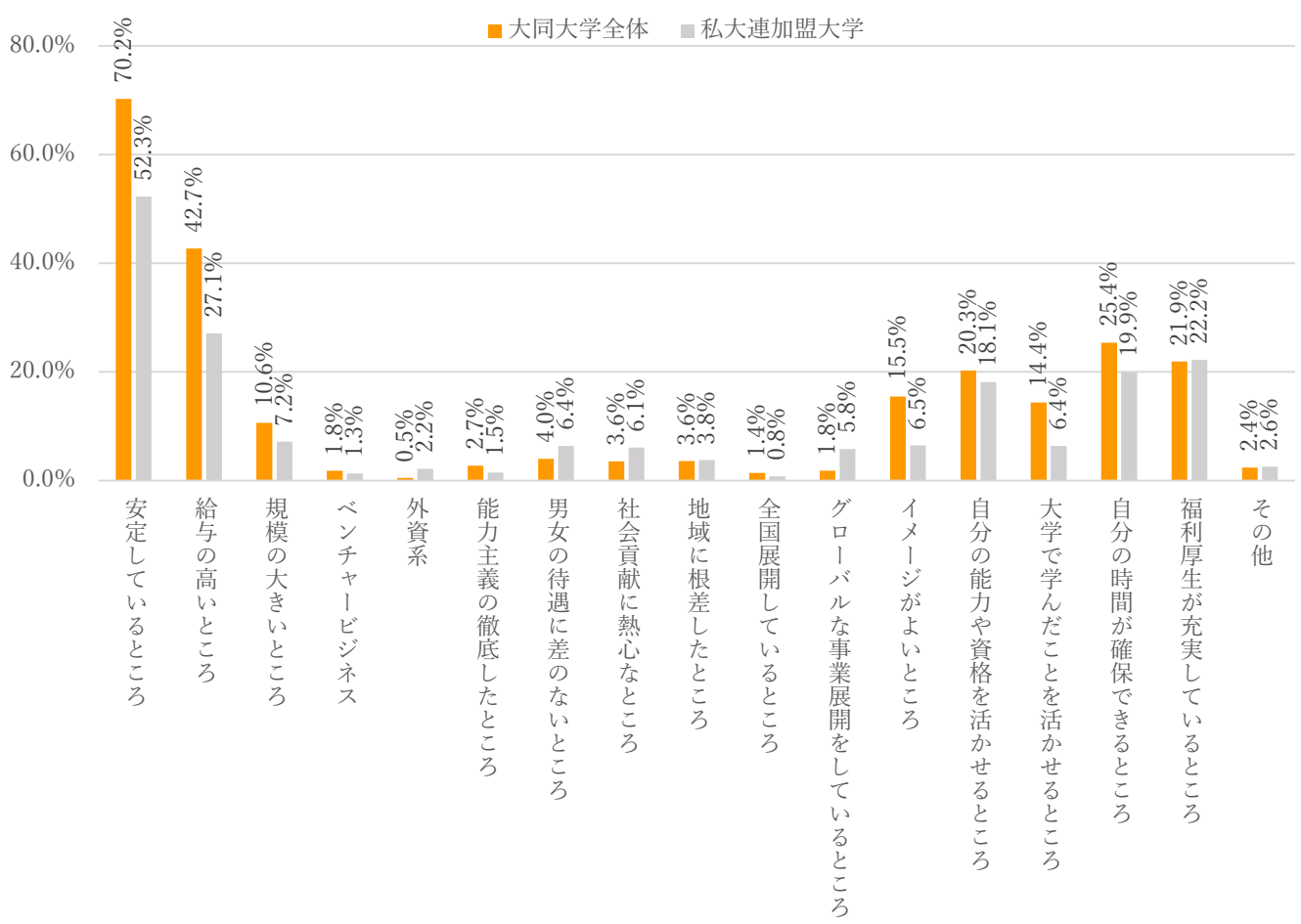
<本学の各学年の平均>



進路選択については、特に問題なし

希望する進路については、全体としては、全国平均とは異なり、「民間企業」を選んだ学生が多く、「公務員」を選んだ学生の割合が少ない。しかし、学科・専攻別にみると、技術職の採用需要が高い土木・環境専攻においては、「公務員」志望が30%と高く、続いて文系である総合情報学科の「公務員」志望が高い。大学院進学については、進学実績のある学科では、志望が高い。順当な結果であると感じる。

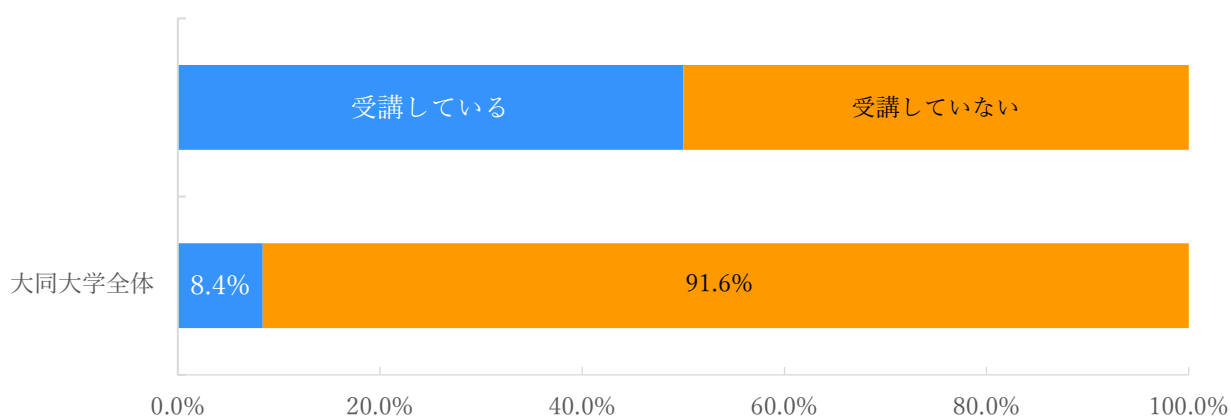
区分	19生	過年度,20生,21生,22生	23生	どのような民間企業・団体に就職したいと思いますか。
設問No.	—	38	15	



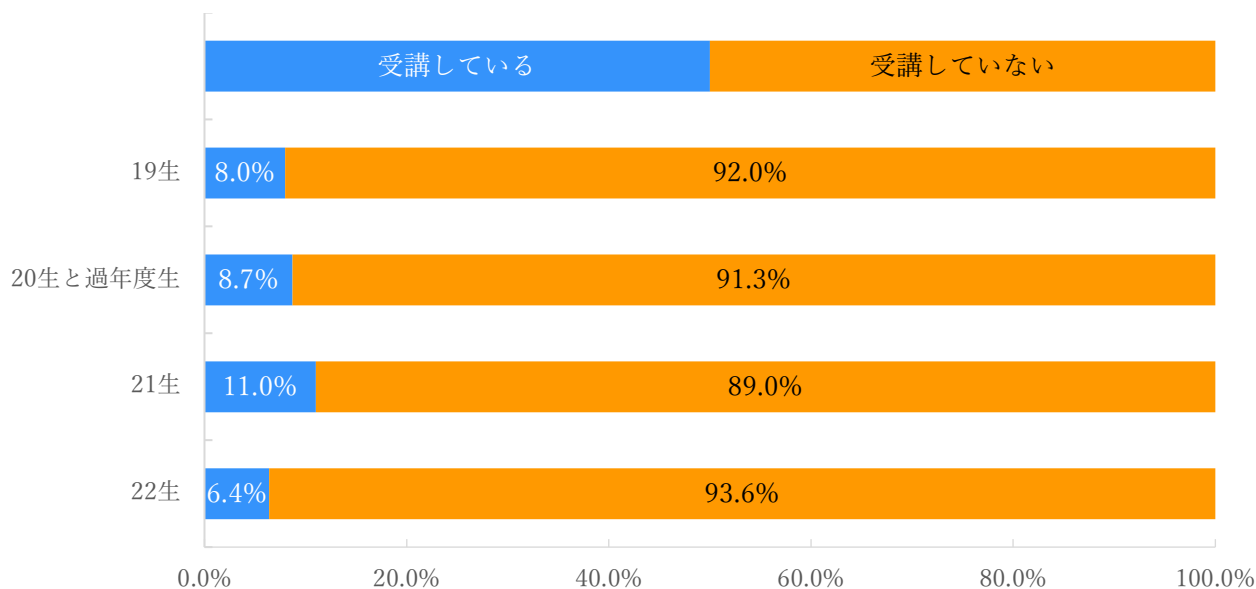
幅広い進路を考えられるような指導が必要

「民間企業・団体」への就職を希望する学生に、具体的にどのような民間企業・団体に就職したいかを聞いてみたところ、全体的には全国平均と同じような傾向にあり、最も割合が高かったのが「安定しているところ」で、続いて「給与の高いところ」であった。その他、「大学で学んだことを活かせるところ」の項目においては、22生を除いて全国平均を大きく上回っている。このことは、本学の理念である「実学主義」が体现されていると言えるかもしれない。逆説的には、学生自身の判断で、企業の幅を狭める可能性もあり、幅広い進路を考えられるような情報提供や指導が必要だと思われる。

区分	19生	過年度,20生,21生,22生	23生	現在、資格、技術取得、受験等のために、学内の資格講座を受講したり、学外の各種学校などを受講していますか
設問No.	36	39	—	



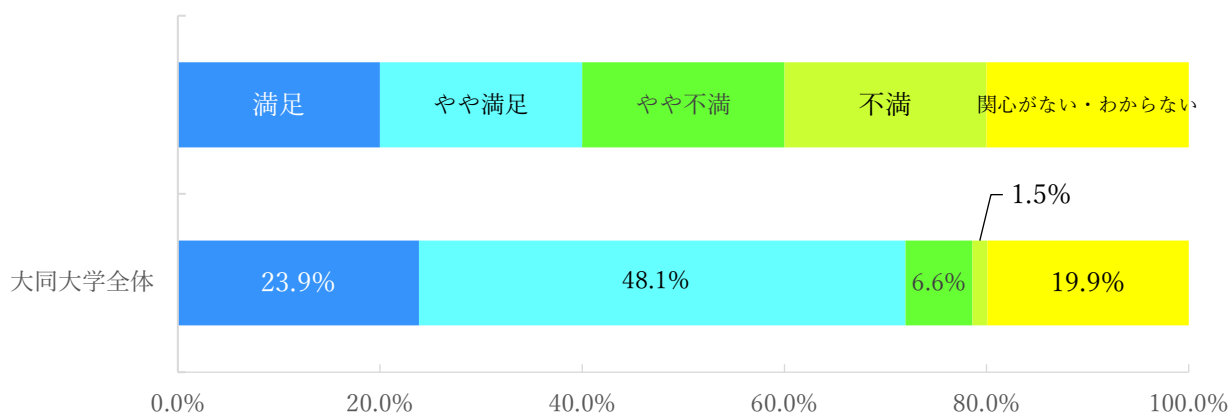
<本学の各学年の平均>



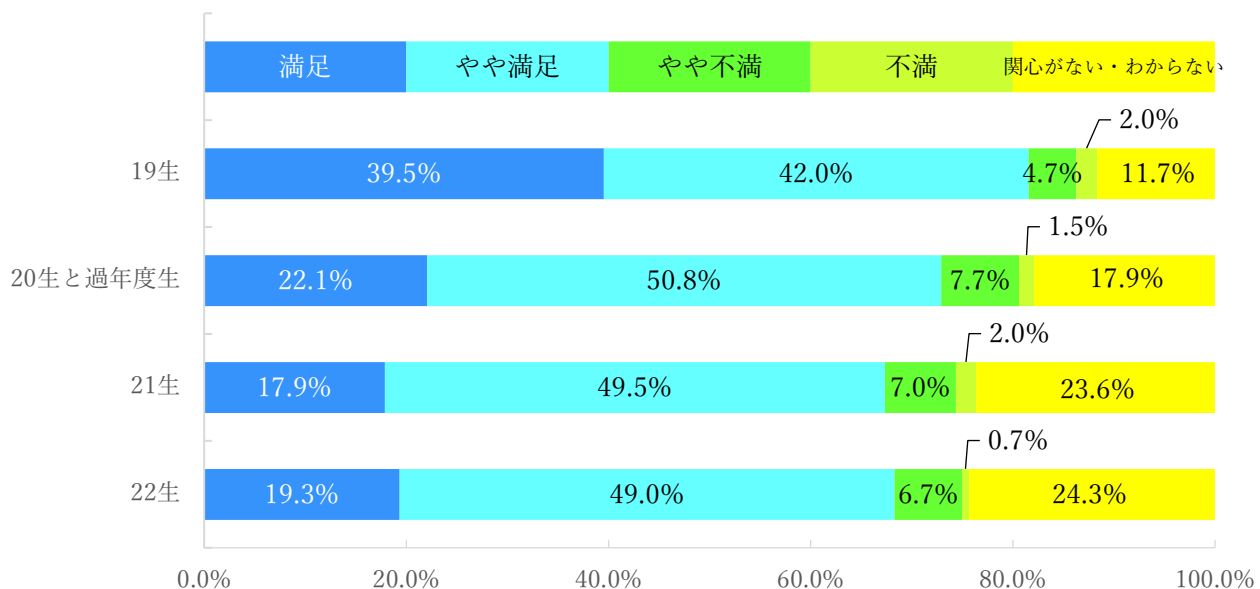
資格取得の理解を進める

全体傾向として、資格に関する学びを受講している割合は、各学年ともに10%程度である。学科ごとの傾向としては、学びと結びつきが理解しやすい資格がある学科(電気電子、建築、情報システム)の受講率は、比較的高い。全国平均は20%でありそれと比較とすると、本学は10%低い。この点も、本学の学生気質である「自信のなさ」「積極的ではない」ことからこのような結果になっていると想定される。「資格取得＝就職」という関連性がかなり低い、「資格取得＝自信」という関連性は高いと思われるので、このような観点で、資格取得に関するアナウンスを実施してゆきたい。

区分	19生	過年度,20生,21生,22生	23生	就職・進学における大学の支援に満足していますか。
設問No.	37	40	—	



<本学の各学年の平均>



無関心層の就職に対する意識向上が必要

22生～20生までは「満足」「やや満足」の割合が約7割程度であり、19生以上となると約8割となる。反対に「不満」「やや不満」の割合は、全体傾向として6%～8%である。残りは「関心がない・わからない」であり、就職活動を経験した19生以上は、この割合が10%程度である。就職活動を経験していない22生～20生までは、約20%程度となっている。「関心がない・わからない」ということは、就職に対する意識がない・希薄であるとも思われる。本学の就職率・就職先を向上させるには、この層に対するなんらかの取組が必要だと思われる。

あとがき

本報告書は、2020 年度に受審した大学認証評価で頂いた指摘を契機として、本学が初めて実施した学生実態調査アンケートを取り纏めたものである。このアンケートにより、本学学生の実態や意識、さらには学生の本学の教育や学生支援に対する評価や意見などを詳細に把握することができた。また、特にこのアンケートでは、他大学（私大連加盟大学）と比較できるようにアンケート項目を作成したことにより、本学学生の実態把握と共に、本学の状況や特徴を他大学と比較して捉えることができた。言わば、本学の現在地を知ることができたと考えている。

例えば、アンケート結果によると、所属する学科・専攻の満足度は、上位学年になるほど高くなる傾向が見て取れる。また、卒業研究の満足度は大学全体で 83%、工学部が 84%、情報学部が 80%と極めて高い。一方、就職に関しては、本学の学生は他大学よりも就職に対して不安をより強く感じていることが示された。また、職員の窓口対応は他大学と同様の結果が得られ、「丁寧な話し方」「笑顔・明るさ」「素早い対応」が求められると共に、「正確な情報提供」の回答も多かった。

ここに記したものは結果のほんの一部であり、その他にも数多くの貴重な知見や気付きを得ることができた。また、この調査では、大学全体の集計結果を示すと共に、学科・専攻別に集計したものを学科等に提供し、考察いただいた。その考察から、各学科等の特性や課題も見出すことができた。

しかし、重要なのはこれからである。今後、この調査結果と共に、学内で行われているその他の調査結果も踏まえ、改善できることは改善し、向上できることはさらに向上させ、本学の教育・研究の質をさらに高めていく必要がある。様々な調査やアンケート結果をどのように評価し、活用していくのかについては、現在活動中のアセスメント検討WGでご議論いただき、それを踏まえて実行したい。また、今後、この調査を継続することにより、経年の分析も可能になるため、取り組んだ施策の効果検証にも活用できると考えている。

このような取り組みを通じて教育の質を確保し、本学に迎え入れた学生をしっかり教育し、成長させ、豊かな教養と専門的な知識・スキルを身に着けた学生を社会に輩出することは、まさしく本学の建学の精神「産業と社会の要請に応える人材の養成」そのものであると考えている。

この調査に回答していただいた学生の皆さん、そして、この調査の実施・分析に多大なる時間と労力を割いていただいた教職員の方々に心より感謝申し上げます。

2023 年 12 月

大同大学
学長 渡邊慎一